

# 工学院大学新入生の Yatabe-Guilford

## 性格検査法による性格

鎌 田 英 爾

### 〔I〕 は じ め に

今迄多くの人々によって、Y—G性格検査法による研究が行なわれて来ており、日本体育学会においても、運動部の選手などに対して、種々の角度から研究が行なわれ発表されている。

工学院大学におけるクラブ活動は、この数年の間に非常なテンポで盛んになって来ているが、工科系という点で何かと制約され、文科系大学の様な活躍を見る迄には至っていない。勿論我々も決して一流選手の養成を望んでいる訳ではなく、クラブ活動を通じて、講義や実験からは得難い何かを吸収して、より幅のある人間を形成して欲しいと願っている訳である。

そこで本学の様に、特に選手養成に力を入れていない大学でのクラブ活動に参加している学生は、何もしていない学生や文化系サークルの学生と異なる点があるのだろうかなどという点について、いくばくかの資料を得る為、Y—G検査を二年にわたって試みた次第である。

そこから、クラブ活動の違いや経験の有無、中でも運動部については経験の差による違いについて、あるいは学科別の性格特性などについて考察を加え、本学々生の性格の傾向をさぐってみたいとしたものである。

(尚、一部は日本体育学会に発表)

### 〔II〕 調査方法・内容

#### (1) 対 象

工学院大学一年生

#### (2) 調 査 時 期

第一回 39年12月～40年1月

第二回 41年6月～41年7月

#### (3) 調 査 人 員

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第一回 658名

第二回 731名 合計 1,389名

(4) 調 査 内 容

- a) Yatabe-Guilford 性格検査
- b) 中学・高校・大学における経験クラブ名とその年数
- c) 出身中学・高校

(5) グルーピング（第一表）

- a) 運動部経験者……………(運動部)  
文化部長経験者……………(文化部)  
クラブ活動無経験者…(無所属)
- b) 運動部経験を更にグルーピング  
中学時代にのみ経験……………(運①)  
高校時代にのみ経験……………(運②)  
大学のみ又は中学と大学にて経験……………(運③)  
中学と高校時代に経験……………(運④)  
高校と大学又は中学・高校・大学と連続して経験……………(運⑤)
- c) 学 科 別  
機 械 工 学 科……………(機 械 科)  
生産機械工学科……………(生 産 科)  
工 業 化 学 科……………(化 学 科)  
化学工学コース……………(化 工 科)  
電 気 工 学 科……………(電 気 科)  
電 子 工 学 科……………(電 子 科)  
建 築 学 科……………(建 築 科)  
建築設備工学コース……………(設 備 科)

〔Ⅲ〕 Y—G 性格検査について

(1) Y—G 性格検査は、アメリカ南カリフォルニア大学の心理学教授であった、J. P. Guilford 教授の考案によるものをモデルとして、我が国で京都大学の矢田部氏、辻岡氏等によって、テストの標準化・妥当化・実用化がなされ現在に至ったものである。

(2) 本検査法は 120 項の質問から出来ており、被験者の、各項目に対する解答の仕方によって、12 の尺度別に粗点（0～20 点）が計算され、プロフィールを作る様になっ

ている。そして各尺度は相互に関係の深いものが相隣り合う様に配列されている。これはプロフィールを一見してその人の性格構造がすぐ判定出来る様に工夫されている為である。

(3) 12の尺度及び相互の関係は次の通りである。

小 ← 粗点 → 大			
情緒安定性因子	抑うつ性小	D	抑うつ性大
	気分の変化(回帰性)小	C	気分の変化(回帰性)大
	劣等感小	I	劣等感大
	神経質でない	N	神経質
社会的適応因子	客観的	O	主観的
	協 調 的	Co	非 協 調 的
非活動性因子	攻撃的でない	Ag	攻 撃 的
非衝動性因子	非 活 動 的	G	活 動 的
	のんきでない	R	の ん き さ
内省性因子	思考的内向	T	思考的外向
非主導性因子	服 従 的	A	支 配 的
	社会的内向	S	社会的外向

この12の尺度は以上の様に、6個のグループ(因子)に分類出来る。尚 Ag・G・Rの尺度は、夫々二つのグループにまたがって入っている。

(4) 又12尺度のうち、DからCo迄の6尺度は、情緒的色彩を持ったものであり、AgからS迄の6尺度は、右側は高次の外向性、左側が高次の内向性という事が出来る。

(5) 尺度・因子レベルの考察

各尺度について、得点がどちら側にどの程度片寄っているかという事から、その尺度の傾向を見る。又前述のグループ(因子)内で、得点が同じ側にまとまっていればいる程、強い確信を持ってその人の性格傾向が診断出来るという事になる。

(6) 最後にプロフィールの全体傾向から、類型を判定する。上半分の6尺度は情緒性、下半分の6尺度は向性であるから、これを組合せて、A・B・C・D・Eの5つの典型が考えられる。これは系統値を算出して判定出来る様になっており、系統値の大小により、典型の他に夫々準型・亜型に分類される。

(7) プロフィール5類型の性格特徴

A型(平均型) Average Type (ありふれ型)

とりたてて特徴のある傾向を示さない人で、云いかえれば平凡な人である。知能が低い人の場合は、無気力で受動的な性格という事になる。

B型(右寄り型) 不安定不適応積極型 Black List Type (暴力型)

この型は性格の不均衡が直接外面にあらわれ易いタイプで、反社会的行動に出やす

く、悪い環境や知能が低い場合は、非行に向い易い。調査によると犯罪者にはこの型の者が多い。従ってその早期発見に役立つと考えられる。非行化の可能性を他のタイプより多く持っているといえる。

C型（左寄り型）安定適応消極型 Calm Type（鎮静型）

良く云えば安定して落ち着いたタイプであるが、その代り積極性に乏しい。犯罪とはおよそ縁のないタイプである。

D型（右下り型）安定積極型 Director（代表者）

性格の良い面が外部にあらわれ易いタイプで、一般に管理者として成功している人に多い。但し本検査は質問紙形式なので、反応歪曲が一番弱点となる。本検査はこれが出来ただけ減少される様に構成されてはいるが、やはり一部反応歪曲の影響はまぬがれない。しかしこの様な点を含みながらも、この型の妥当性を統計的に検討してみると、やはりD型は良好である事が証明されている。

E型（左下り型）不安定不適応消極型 Eccentric Type（ノイローゼ型）

この型はD型と反対のタイプで、性格の悪い面が内攻するタイプである。どちらかというとなイローゼ型であり、変り者のタイプで無気力・受動的である。特にG尺度が非活動的な人はノイローゼ傾向が強い。

以上のプロフィールは、5つの類型の典型的なタイプに対するものであり、現実には必ずしもこの様に典型的な型を示す人ばかりではない事が多い。

〔IV〕「辻岡氏の標準点」と「本学の平均点」との比較

(1) 尺度別による考察（第4、16表）

辻岡氏平均と本学平均との間には Ag（攻撃性）に於いて有意差が認められなかった（ $\frac{x}{\sigma}=1.58, 86\%$ ）他は全て1%又はそれ以下で有意であった。中でもD（抑うつ性小）、S（社会的外向）、I（劣等感少）、G（活動的）、N（神経質でない）の尺度では、辻岡氏の平均より1.0～1.8（粗点）の差でよい傾向が見られた。

(2) 因子グループによる考察（第1図、第17表）

図表から見ると、DCIN（情緒安定性）、GR（衝動性）、RT（非内省性）、AS（主導性）の各因子グループにまとまりが見られるが、これを辻岡氏平均との間で検定してみると、O Co Ag（社会適応性）の因子グループが10%水準で有意だった他はすべて1%以下の水準で有意差が認められた。

(3) 尺度の上半分（D C I N O Co）と下半分（Ag G R T A S）について



の考察(第14表)

上半分の6尺度と、下半分の6尺度の差を平均してみると、辻岡氏の平均によるものは0.373であるのに対し、本学のそれは2.222であった。この数字は、統計的に見ても非常に大きな差であると云う事が出来よう。

従ってこの資料からは、本学の学生は、辻岡氏の平均より、情緒性二次因子(上6尺度)の点で安定適応の側に、向性二次因子(下6尺度)の点でも、活動・外向の側に傾いていると云える。

(4) 総 括

辻岡氏により、約4,000名の大学生によって標準化された平均点と比較するならば、本学学生全体のプロフィールは、より安定・適応・積極型(D型)に寄っているという事がいえる。これは前述の検定の結果から見てもはっきりしていると云えよう。

[V] 経験差のグループによる比較

(V-1) グループ別による考察

(1) 尺度による考察

(a) 39年(第2, 5, 18表, 第11図)

(i) 辻岡氏平均との比較では、文化部のR(のんきでない)と無所属のCo(非協調性)の尺度が劣るだけである。

運動部のD・C・I・N・G・A・Sと、文化部のD、無所属のDは特に良い傾向を示している。

(ii) 本学の平均と比較してみると、辻岡氏の平均との差程は大きくないが、運動部ではN、Coが10%水準で、Gが5%水準で有意差を示し、共にD型寄りである。これが文化部ではC(気分の変化大=回気性)とG(非活動的)が5%水準で有意である。又無所属では、N(神経質)が10%水準で、Co(非協調性)が5%水準で有意差が認められ劣っている。

(b) 41年(第3, 6, 18表, 第12図)

(i) 辻岡氏平均との比較では、無所属のC(気分の変化大)、Co(協調性欠除)、G(非活動的)、A(非支配的)の各尺度が平均より劣っている。

反対に、運動部のD・I・N・Co・G・R・A・Sの各尺度、文化部のD・C・I・A・Sの各尺度、無所属のD・Tの尺度は、よりD型寄りの良い傾向を示している。

(ii) 本学の平均と比較すると、運動部には有意差がなく、文化部ではAg(非攻撃的=愛想が悪い)とR(のんきでない)、無所属では、I(劣等感大)、Co(非協調的)、

G(非活動的)、T(思考的外向)の尺度が5%水準で、無所属のC(気分の変化大)が10%、A(服従的)、S(社会的外向)が1%以下の水準で有意である。

(c) 合計 (39年と41年の合計) (第4, 7, 16, 18表、第13図)

(i) 辻岡氏平均との比較では、運動部ではO(客観的)が10%で有意である以外は、全て1%以下の水準でしかもきわめて良い方向(D型)に有意な差が認められた。又文化部ではO, Ag(攻撃的), R(のんきさ)の3尺度では有意差が見られなかったが、その他では夫々10%(N, G, T) 5%(A) 1%以下(D, C, I, Co, S)で有意であった。又無所属では、10%でI(劣等感小), G(活動的)、5%でO, T(思考的外向)、1%以下でD(抑うつ性小), C(気分の変化小)に夫々有意差が認められた。

(ii) 本学の平均と比較すると、運動部ではN, Co, R, Sで10%、I, Gで5%の有意差、文化部ではRで10%、Ag, Gで5%の有意差、無所属ではNで10%、I, G, Aで5%、Co, Sで1%以下の有意差がみられた。

(2) 因子グループによる考察

(a) 39年 (第2, 11図)

辻岡氏平均と比較すると、運動部ではDCIN, RT, ASの因子グループに良い方向でのまとまりが見られる。文化部では、AgG, AS, に良い方向のまとまりが見られ、無所属ではASにまとまりが見られ、AgG, DCIN にはややまとまりが見られるのみである。

(b) 41年 (第3, 12図)

運動部ではDCIN, AgG, GR, RT, ASの各因子グループにまとまりが見られ、文化部ではDCIN, RT, ASの因子グループに、無所属ではGRにのみ良い方向へのまとまりが見られるにすぎない。

(c) 合計 (39年と41年の合計) (第4, 13図、第17表)

(i) 辻岡氏平均と比較すると、運動部では、OCoAg(社会的適応性)が10%で、他はすべて1%以下の有意差で良い方向への結合が見られる。又文化部ではDCIN(情緒安定)、AS(主導性)に有意な結合が見られ、OCoAg(社会的適応性)は統計的に有意ではなかったが、やや結合が見られた。無所属ではDCIN因子に1%以下で有意差が認められただけである。

(ii) 本学平均と比較すると、運動部では AgG(活動性)、GR(衝動性)、AS(主導性)に、文化部では AgG, GR因子に、無所属ではGR, AS因子に結合がみられる。

(iv) 6種の因子グループの中では特にDCIN(情緒安定因子)とAS(主導性因

子)の結合が非常に重要であるが、41年の無所属を除けば、他は大体まとまっていると見てよい。

(3) 総 括

(a) 39年 (第2図)

辻岡氏平均を基準にして、本学の運動部、文化部、無所属を比較して見ると、平均より悪い方(E型寄り)に寄っている文化部のR(のんきでない)と無所属のCo(非協調性)の二つの尺度を除けば全て、安定・適応・積極型(D型)の側に寄っている。又三つのグループ間では、運動部がもっともD型の側に寄っており、逆に文化部が辻岡氏平均に一番近く、無所属はその中間に位置しているとする事が出来る。

これを本学平均と比較すると、運動部のみがD型寄りにあって、文化部、無所属は反対のE型寄りになって来る。

(b) 41年 (第3図)

図を見ると39年と41年の間に大部変化が見られるが、運動部についてはほぼ同じ傾向であるといえる。一番著しく変化しているのは無所属である(特にC・T・A・S)。これは無所属の $n(=61)$ が少い事に原因の一つがあるものと思われる。

これを本学平均と比べると、運動部は39年と同様にD型寄り、無所属はE型寄り、文化部はその中間に位置している。

(c) 合計(39年と41年の合計)(第4図)

(i) 運動部は当然の事ながら39年と41年の場合と殆んど変化がない。一方文化部と無所属は39年と41年が歩み寄った結果、二つのグループは殆んど似た様なプロファイルとなっている。しかしそれでも尚辻岡氏平均よりはD型寄り(安定・適応・積極)であるといえる。

(ii) 本学の平均と比較すると、運動部は39年、41年の場合より更にはっきりとD型の傾向を現わしており、文化部、無所属はE型寄り(不安定・不適応・消極型)の傾向に傾いている。しかし無所属の方が文化部よりわずかではあるが、よりE型である。

(iii) 各年度のグループを、本学合計の平均と5%有意差で比較すると、41年の無所属と、合計の無所属に有意差の認められる尺度が多く、その他のグループは、有意差がないか、あっても1ヶか2ヶしか見られない。

(iv) 全般的に41年の無所属だけが、異色な傾向を示しているが、その他は大体同じ傾向にあるという事が出来る。そして運動部は常に一定して安定適応積極型(D型)であり、他の2グループは、夫々似た傾向で、辻岡氏平均よりはD型であるが、運動部又は本学の平均と比較すると不安定・不適応・消極型(E型)寄りである。

(㊦) 41年の無所属だけ異った傾向を示しているが、これは前述の様な原因も考えられるし、少数の中に特に異質な学生が混っていたとも考えられなくもない。更に綿密な検討を加えていく事によってはっきりしてくるものと思われる。

(㊧) 検定の結果でも明らかであるが、運動部と他の二つのグループとの間には、何か性格的にも差があるのではないかと推察される。そして文化部と無所属の間には、わずかの相異は見られるが有意差は殆んど見られないことから、この2つのグループはほぼ同質のグループと見てもさしつかえない様である。これは運動部と文化部のクラブ活動の方法、性質などの違いなどがその原因の一つではないかと考えられる。

#### (Ⅶ-2) 経験別グループ相互の比較 (第19表)

##### (a) 39年

(i) 文化部と無所属の間にはC尺度(回帰性)が、危険率5%水準で有意(無所属の方が良い傾向)だった他は、差が認められなかった。

(ii) 運動部と文化部の間では、G尺度(活動性)が1%以下、C(回帰性)、S(社会的向性)が5%水準で、I(劣等感)が10%水準で有意である。この4尺度はいずれも運動部の方がD型寄りの傾向を示している。

(iii) 運動部と無所属の間では、Co(協調性)が1%水準で、N(神経質)、G(活動性)、S(社会的向性)が5%水準で有意差が認められる。この4尺度はいずれも運動部の方が、D型寄りの、良い傾向を示している。

##### (b) 41年

(i) 文化部と無所属の間では、C、Co、S、G、Ag(攻撃性)、A(支配性)、T(思考的向性)の7尺度に有意差が見られ、C、Co、Ag、Tの各尺度は文化部の方が良く、G、S、Aの尺度は無所属の方がD型寄りの良い傾向を示している。

(ii) 運動部と文化部の間では、C、N、Ag、G、T、I、R(のんきさ)の7尺度に有意差が見られ、いずれも運動部がD型寄りの傾向が見られる。

(iii) 運動部と無所属の間では、C、I、N、Co、G、A、Sの7尺度で運動部の方が、T尺度で無所属の方が良い方向に(D型)いずれも有意な差が認められる。

##### (c) 合計

(i) 文化部と無所属の間では、Co尺度が1%以下の水準で、S尺度が1%水準の有意差でいずれも文化部の方にD型寄りの傾向が見られた。

(ii) 運動部と文化部の間では、I、N、Ag、G、Rの5尺度が、いずれも5%以下の有意差で運動部の方がD型寄りの良い傾向を示している。

(イ) 運動部と無所属の間では、I, N, Co, G, R, A, Sの7尺度がいずれも5%以下の有意水準で運動部の方がD型寄りの良い傾向を示している。

(ロ) D尺度(抑うつ性)とO尺度(客観性又は主観性)は、39年、41年、合計の、いずれの所でも有意差が認められなかった。又運動部と文化部の間ではCoとS尺度、運動部と無所属の間では、Ag尺度、文化部と無所属の間では、I, N, R尺度が、いずれも有意差が認められなかった。

(ハ) 上6尺度(DCINOCO)と下6尺度の差を比較すると、39年では無所属が運動部と文化部の中央に位置し、41年では文化部が他の二つのグループの中間にあるが、わずかに運動部寄りである。又合計では文化部が中間にあるが、無所属と殆んど変らない。いずれも運動部がもっとも差が大きくD型寄りである。

(e) 総 括

文化部と無所属の間では、41年にはいくつか有意差が見られたが、39年、合計では殆んど見られず、ほぼ同質のグループと見る事が出来よう。運動部と文化部の間には、差のあるものが見られ、運動部と無所属の間には更に差がある事が分る。したがって運動部は文化部や無所属、特に無所属とは明らかに質を異にした、D型寄りの傾向を示している事がはっきりしてくる。

(V-3) 運動部の経験差による考察

(1) 尺度別による考察

(a) 39年 (第2, 5表, 第5図)

辻岡氏平均を基準にして書いたグラフを見ると、全般的にD型寄りの傾向であると云える。中でも運動部3(以下③と略す)のD、④のD, I, N, S、⑤のG, A, Sなどは特にその差が著しい。

反対に、平均より悪い方向(E型)に傾いているのは、①のR、③のAgだけである。これを本学の平均と比較してみると、その差は当然小さくなるが、それでも特に良い傾向を示すものとして、④のN、⑤のG, Aなどがある。

(b) 41年 (第3, 6表, 第6図)

辻岡氏平均との比較では、やはり全体的にD型寄りの傾向が見られ、中でも③のD、④のD, I, S、⑤のD, A, Sの各尺度がより強い傾向を示している。反対にE型寄りの尺度は、①のR、④のD、⑤のOだけである。これを本学の平均と比較してみると、やはり差は少ないが、それでも②のT、④のI, Sは強く良い傾向を示している。反対の悪い方向(E型寄り)を示す尺度はない。

(c) 合計 (第4, 7表, 第7図)

辻岡氏平均と比較するとやはりD型寄り(安定適応積極型)の傾向が見られる。その中でも強い傾向にある尺度は③(大学又は中学と大学)のD(抑うつ性小)、④(中学と高校で経験)のD, I(劣等感小), G(活動的), S(社会的外向)、⑤(中学・高校・大学で、又は高校と大学)のSなどである。

逆に悪い方向の尺度は③のAg(攻撃的—愛想が悪い)、⑤のO(主観的)などである。

本学平均との比較では、先の39年、41年の場合より更に平均化されて差が小さくなっているが、その中でも強い傾向を示す尺度は、③のR(のんきである), T(思考的外向), A(支配的)、④(中学と高校で経験)のN(神経質でない), Ag(攻撃的), G(活動的), R, A, S(社会的外向)、⑤のG, R, A, S及びO(主観的)などである。

(2) 因子グループ別による考察

(a) 39年 (第5図)

結合が見られるのは、①(中学で経験)ではDCIN, AS、②(高校で経験)でもDCIN, AS、③ではDCIN、④ではDCIN, AgG, GR, AS、⑤ではGR, RT, ASなどである。

(b) 41年 (第6図)

ここで結合度の強いものは、①のAS、②のDCIN, GR, RT, AS、③のDCIN, GR, RT、④のAgG, GR, AS, RT、などでその他の因子グループにはあまり結合が見られない。

(c) 合計 (第7図)

強い結合が見られる因子グループを見ると、①のDCIN(情緒安定性), AS(主導性)、②では情緒安定性と主導性、③では、情緒安定性とGR(衝動性), RT(内省性)、④ではAgG(活動性), 衝動性, 主導性、⑤では情緒安定性, 衝動性, 主導性などである。但し特に重要な情緒安定性(DCIN)が④に、主導性(AS)が③に、結合が見られないのが気になる。

(3) 上半分(D~Co)と下半分(Ag~S)の平均差の比較(第14表)

39年の上半分と下半分の平均差の一番大きいグループは④(3.392)で、反対に一番小さいのは③(2.040)である。

41年では④(2.991)がやはり一番大きく、①(2.287)が一番小さいが39年程の差ではない。

合計で見ると、41年と同じで、大きいのが④で、小さいのは①である。

本学の平均と比較してみると、39年の①、③を除けば、他は全て平均以上である。

即ち全般的にD型寄りの傾向が強いという事がいえる。

(4) 総 括

(a) 上半分と下半分の平均差の比較では、各年度、合計共①(中学)、③(大学又は中学と大学)が最も差が小さく、結局高校にてクラブ活動を経験したものが、そうでないグループよりも差が大きい(D型寄り)ということが出来よう。

(b) 本来ならば、⑤(高校、大学又は中学、高校、大学)が一番差が開くだろうと推察していたのだが、④(中学、高校)の方がそれを上まわって大きくなっている。これは大学での経験といっても新入生の事であるし、大学での経験は一年にも満たず、又1年間で退部していく者が多い事を考え合わせると、さほど予想外な結果ではないとも考えられる。

今回は(高校、大学)のグループと、(中学、高校、大学)のグループを色々な関係で一緒にしてしまったが、(中学、高校)のグループに次いで差が大きく、その差もあまり離れていないことから、⑤のグループを二つに分けていたら、(中学、高校、大学)グループの差が一番大きくなっていたかも知れないと考えられる。

(c) 情緒安定因子(DCIN)では、まとまりのみられるものが多く、④も全体としてのまとまりはないが、辻岡氏平均との差が大きい尺度が多い。外向性因子(AS)の面では全体的にまとまりの見られるものが、③を除いて多い。しかし③も辻岡氏平均との差は大きい。

〔VI〕 学科別による考察

(1) 尺度別による比較

(a) 39年 (第8, 11表、第8図)

(i) 辻岡氏平均と比較すると、全般的に、安定適応積極(D型)の傾向にあるが、化学科と建築科は殆んど辻岡氏平均に近くてあまり差がなく、反対に一番D型寄りの学科は生産科と化工科である。その中で、よりD型の傾向が強い尺度は、機械科ではI(劣等感少), N(神経質でない), Co(協調的), G(活動的), S(社会的外向)の各尺度、化工科ではD(抑うつ性少), N, G, S, 電子科ではD, 設備科ではD, N, G, A(支配的)などである。辻岡氏平均より劣る(E型寄り)尺度は、化学科のI(劣等感), O(主観的), Co(非協調的), Ag(非攻撃的), A(非支配的)、建築科のD(抑うつ性大), R(のんきでない)などであるが、その差はごくわずかである。

(ii) 本学の平均と各学科を比較してみると、その差は当然小さくなるが、それでも差の大きいものを拾うと、生産科のN(神経質でない), Co(協調性)、化学科のI(劣

等感大), A(服従的)、建築科のD(抑うつ性大)などである。

(b) 41年 (第9, 12表, 第9図)

(i) 辻岡氏平均との比較では、やはり全般的にD型寄りであるが、化学科は其中でも一番平均に近く、反対にD型寄りの学科は、化工科、建築科などである。

よりD型な尺度を拾うと、機械科ではD(抑うつ性少), S(社会的外向), Co(協調性大)、生産科ではS、化工科ではI(劣等感少), S、電気科のS、建築科のI, Sなどである。反対に辻岡氏平均より、E型の傾向を持った尺度は、機械科のAg(非攻撃的)、生産科、化学科、電気科のO(主観的)と電子科のO, Ag, T(思考的内向)などであるが、やはりその差はわずかである。

(ii) 本学の平均と比較すると、やはりその差は小さくなっているが、それでも機械科のD, Co(協調性), Ag、生産科のS、化工科のR(のんきである), T、建築科のI(劣等感少)などが目立って大きい差を示す。

(c) 合計 (第10, 13表, 第10図)

(i) 辻岡氏平均と比較すると、機械科、電気科、設備科は二つの年度にわたってはいないのでそのまま変らないが、その他の学科でその差の大きい、D型寄りの尺度は、機械科のD(抑うつ性少), Co(協調性), S(社会的外向)など、生産科のS、化工科のS, D、電気科のSなどである。そしてわずかではあるが、辻岡平均よりE型寄りを見せている尺度は化学科のO(主観的), A(服従的)、機械科のAg(非攻撃的)、電気科のOなどである。

(ii) 本学平均との比較では、機械科のD(抑うつ性少), Co(協調的), Ag(非攻撃的)などが平均化されて、差が小さい中でも目立って大きな尺度である。

(2) 因子グループについての比較

前述した尺度別の差が、因子グループ毎にまとまりが見られると、更に高い確率で判断出来るという訳である。

(a) 39年 (第8図)

因子グループにまとまりの見られるのは、機械科ではAgG(活動性), RT(内省性)、化工科のAS(主導性)、電子科のDCIN(情緒安定性), AS、建築科のAgG, GR(衝動性), RT、設備科のASなどである。

(b) 41年 (第9図)

機械科のGR, AS、生産科ではDCIN, GR, RT、化工科ではAgG, GR, RT, AS、電気科ではAgG, GR, RT、電子科ではGR, AS、建築科ではDCIN, AgG, RT, ASなどの因子グループはそれぞれ結合が見られる。



(c) 合 計 (第10図)

結合の見られる因子グループは、全体の約半数にも達するがこれを科別に見ると次の様になる(いずれもO型寄り)。

機械科——GR, AS

生産科——DCIN, AgG, GR, RT

化学科——AgG

化工科——DCIN, GR, RT, AS

電気科——AgG, GR, RT

電子科——DCIN, OCoAg, RT, AS

建築科——DCIN, AgG, RT, AS

設備科——DCIN, AS

(3) 上半分 (DCINOCO)と下半分 (AgGRTAS) の平均の差の比較(第15表)

39年の場合、平均の差が一番小さい学科は、化学科(0.879)で、反対に差が一番大きいのは生産科(2.843)である。そして二者の中間に電子科、建築科、化工科、設備科が位置している。これを本学の平均と比較すると、生産科、化工科が平均を上まわっているにすぎず、他はE型寄りである。

41年の場合は、一番差の小さい学科は化学科(1.544)で、大きいのは化工科(3.035)である。これをやはり本学の平均と比較してみると、本学を上まわるものは、機械科、生産科、化工科、建築科の4学科である。

合計の場合は、化学科(1.481)が一番小さく、化工科(3.035)が一番大きく(つまりD型寄りの傾向が強いという事である)他はその中間にある。そして本学の平均より上まわってD型寄りの学科は機械科、生産科、化工科、建築科で、41年の場合と全く同じである。

即ち上半分の6尺度は点の低い方が、下半分の6尺度は点の高い方がD型寄りという事になり、従ってその差の大きいもの程D型寄りという結果になるのである。

(4) 総 括

(a) 全体のプロフィールから感じられることは、化学科に於いては辻岡氏平均と殆んど変りがなく、反対に機械科は非常に差があってD型寄りである。他の学科は先の二つの学科の中間に位置している訳であるが、どちらかという、機械科のプロフィールに類似しているといえよう。

(b) プロフィールの上半分と下半分とを夫々比較してみると、上半分(情緒安定)が特にD型寄りの学科は、機械科、生産科、化工科などで、下半分(外向性)では機械

科、生産科、化工科、電気科で特に大きい差が見られる。

(c) プロフィールの上半分と下半分（図では左半分と右半分になる）の差を見ると、辻岡氏の平均の差は 0.373 なので、全ての学科がそれを上まわって D 型寄りではあるが、中でも目立つ学科は、39 年化学科(0.879)と、41 年化工科(3.337)である。

(d) 各科の平均の差と、本学合計の平均の差(2.222)を比較すると、化学科、電気科、電子科は完全に E 型寄りの傾向にあり、他の学科は D 型寄りであると言える、中でも化工科と生産科は各科のうちでも、もっとも D 型（安定適応積極型）であるといえる。

## 〔VII〕 類型別による考察

### (1) 経験グループによる比較

#### (a) 39 年（第20表）

(i) 39 年の全体で見ると、一番多いのが A 類(28.7%)で、一番少ないのは E 類である(2.9%)。E 類はどのグループでも一番少なく、10%以下である。この傾向は文化部、無所属に共通した傾向であるが、運動部だけは D 類が、わずかではあるが多い。

運動部では E 類の他は大体同じ位の割合であるが、文化部では A 類が特に多く、(43.5%)、C、D 類は少ない(20%前後)。又無所属では A、B 類は同じ位で、C、D 類はそれより低い(20%前後)。

(ii) 各類型別に見ると、無所属、文化部共 A'型が一番多いが、二番目は無所属が B'型、文化部が A'型となっている。運動部は D'型が一番多く、次いで A''型となり、先の結果とも一致している。尚典型別では差が見られない。

#### (b) 41 年（第21表）

(i) 無所属、文化部に一番多いのは A 類で、次いで多いのは D 類であるが、運動部ではこれが逆になっており、39 年と殆んど同じ傾向にある。ただ 41 年の全体で見ると D 類が A 類よりわずかに多いのが異なる点である。それから無所属だけは E 類が多く、B、C 類を上まわっているのが目を引く。

(ii) 類型別に見ていくと、運動部では D'型が一番多く、次いで A''型の順であるが、文化部では A'型、D'型の順になっている。無所属では A 型と D 型が同率で一番多く、ついで E'型となっているのが特に目立つ。尚典型別では 39 年と同様特別な差は見られないが、強いてあげるならば無所属の典型は他が 20%代であるのに比べ 37.7%と多い事が目立つ程度である。

#### (c) 合 計（第22表）

(イ) 全体で見ると、A類が一番多く、わずかの差でD類(27.7%)がこれに続き、E類は前と同様非常に少い(6.5%)。グループ別に見ると、運動部ではD類(30.8%)が一番多く、A類(26.8%)がこれに続く。無所属ではA類(29.9%)が一番で、B類(24.0%)がこれに次ぎ、文化部ではA類(36.9%)、D類(26.5%)とつづいている。E類はいずれも10%以下で非常に少い。

(ロ) 類型別に見ると、全体ではD'型、A''型の順に多いがその差は殆んどない(0.2%)。運動部ではこの差が少し開いてくる(3.7%)。文化部ではA''型、D'型の順に多い。無所属ではA''型、B'型の順になるがその差は殆んどない(1.5%)。

(ハ) 類型別で10%を越すものは、運動部——D'、A''、文化部——A''、D'、A'、無所属——A''、B'、D'、ACである。

尚典型別では全くといっていい程グループ間の差が見られない。典型(25%)、準型(40%弱)、亜型(35%強)。

(ニ) E類は各グループ共7%前後で殆んど変らないが、目立った点として、運動部にD類(安定適応積極型)がA類よりわずかではあるが多いという結果は先述してきたものと一致しており、予期した通りである。それに比較して無所属ではB類(不安定不適応積極型)が多いという事も同様であり、文化部はA類、D類の順に多く、さきの2つのグループの中間的存在で、どちらかという運動部寄りである。

## (2) 学科別による比較

### (a) 39年 (第23表)

(イ) 化工科と電子科はA類が一番多く、B、C、D類は殆んど同じである。建築科はやはりA類が多いが、B類に次いで多いのが目立っている。設備科はわずかではあるが、C類が一番多く、生産科ではD類が断然多い。化学科はA類が多く普通であるが、E類が10%と他学科より多いのが目立つ。

(ロ) 類型別に見ると、電子科のD'型が一番多い他はみなA''型が一位である。二番目に多い所は電子科(A''型)、化学科(A'型)の他は全てD'型になっている。但し建築科ではB'型、設備科ではC型がD'型と同数である。この数字だけから見ると、化学科は文化部に、建築科、設備科は無所属に、他は運動部に近い傾向にあるといえる。

### (b) 41年 (第24表)

(イ) D類が一位の学科は化工科、建築科で、他はA類が多い。そして二位には建築科ではA類、化工科ではB類で、他はD類となっている。E類は全般的に非常に少い。典型別では機械科、化工科の亜型と、建築科の準型が50%を越し、機械科の典型が10%以下である事が目立つ。

(ロ) 類型別に見ると、機械科、電子科のA'型、生産科のA'型が一番多く、他はD'型が多い(但し電気科はA'型と同数)。そして二番目に多い類型は、機械科、電子科がD'型、化学科のA'型、建築科のA'型、化工科のAD型、生産科のA型などである。総じて、ここで特に目立った特色は見られない。

(c) 合 計 (第25表)

(イ) 以上を合計して見ると、化工科のD類が多い他は全てA類が第一位である。二位には設備のC類と化工科のA類の他は全てD類となっている。E類はやはり全体に非常に少い(3%以下)典型別では機械科の典型が少い他はあまり特色が見られない。

(ロ) 類型別に見ていくと、D'型が一番多い学科は化工科、電子科、建築科、電気科(A'型と同数)で、他の学科はA'型が多い。そして二番目に多いのは、A'型が化工科、電子科、建築科、D'型は機械科、生産科(AD型と同数)、設備科(C型、A C型と同数)、化学科(D'型とB'型が同数)となっている。

この数字だけから見ると、39年とは少し違って来ている。即ち文化部には生産科、電子科、機械科が近く、運動部には化工科、建築科が近く、他は無所属に近い傾向が、はっきりしたものではないが見受けられる。

(3) 総 括

(イ) 総じて合計ではA'型を含んだA類(平均型)とD'型を含むD類(安定適応積極型)が多いが、学科別による強い特徴はあまり見られなく、わずかに設備科のC類、化学科のB類にやや多い傾向が見られるだけである。

(ロ) 経験グループ別では前述の尺度別あるいは因子グループ別の所でのべた様な結果とはほぼ同様の傾向が見られた。

〔VIII〕 他の調査例との比較

この数年 Yatabe-Guilford 性格検査法を利用した、体育的調査研究は相当数にのぼっており、日本体育学会での発表も数多い。しかし本研究と直接比較出来る様な研究資料は非常に数少く、まれにあっても旧版の調査用紙を使用したりして、比較出来ないものが多い様である。多少なりとも類似したものを、いくつか挙げて見よう。

(1) 運動選手の性格と精神電流現象の反応度(大阪工大、八木田氏、1965、日本体育学会発表)

大阪工大の洋弓部、バレー部、陸上競技部の選手33名に対して、運動の迫体験が、image 的にどの様な精神的興奮を起すかという事と、性格的なものとの結びつきを研究したものであるが、その中に類型別に関する図表があるので本学の運動部と比較し

てみた。

八木田氏の調査によると、少人数ではあるが、やはりD類が多く、類型別ではA''型、D'型が多いという結果が出ている。これは本学の運動部経験者グループの結果とほぼ一致している。

(2) 高校運動選手の性格特性の追跡的考察（福島大学、遠藤氏他、1965、日本体育学会発表）

体育に於ける性格教育についての教育的可能性に関して、Y—G検査により追跡研究したものである。但し入学時の特性（尺度）別のものしか表がないのが残念であるし、高校生と大学生という違いもあるので直接比較する事は無理があると思うが一応試みた。

(a) 高校新入生を、運動部、文化部に入部した者と、しなかった者212名について調査したもので、これによると、運動部は3つのグループの中では一番D型に近いプロフィールを示し、無所属は情緒的色彩(上6尺度)では殆んど変らないが、向性(下6尺度)ではいく分外向寄り、文化部は二つのグループの中間的な存在であるが、その差は殆んどわずかである。

(b) これを本学の平均と比較すると、運動部、文化部共向性の6尺度に本学よりD型寄りのものが見られ、無所属ではややE型寄りである。又グループ毎に比較してみると三つのグループ共情緒的色彩ではややE型に寄っているが、向性ではやや外向寄りのものが見られる。

(c) 尺度別に本学のものと比較してみると、主として向性尺度に外向的なものはいくつか見られるが、無所属を除いては調査人員が少く、追跡研究の詳しい資料も手に入らないので、この程度の比較にとどめたい。

## 〔IX〕 ま と め

(a) 辻岡氏が約四千名の大学生について行なった、標準化された平均値との比較では、本学の合計に於いても、各グループ別に於いても、いずれも明らかにD型（情緒安定適応積極型）寄りである。

(b) 経験グループとの比較でも、やはり全体にD型寄りであるが、運動部が一番D型に寄っており、無所属が一番辻岡氏平均に近い。文化部はその中間に位置しているが、どちらかといえば無所属に近い傾向にある。これを本学の合計と比較してみると、更にはっきりとした傾向が見られる。即ち運動部は本学の平均に較べてD型寄りへ、文化部、無所属は反対のE型寄りになって現われて来る。

(c) これは運動を経験した者がD型寄りに変化して行くのか、D型の者が多く集まる結果そうなるのかは、はっきり云えないが、どこか性格的に他のグループとは違っているという事は間違いなさそうである。そして、文化部は同じクラブ活動でも運動部とは質の異ったサークル活動ではないかと推察される。又文化部と無所属とはさほど異質のグループではない様にも思われる。これは前述した様にサークル活動の根本的な質の相違から来ているのではないかと考えられる。

(d) 運動部の経験調査による比較では、中学・高校で運動部に所属していたものが、一番D型寄りの傾向を示している。グルーピングに若干問題があると思われるが、高校時代にクラブ活動をしていた者が良い傾向にある様にも思えるけれど、はっきりとした事は分らない。

(e) 学科別では、機械、建築系の学科と化学、電気系の学科とは、明確な差ではないが、性格的に見て何か対照的な関係にあるのではないかと予想していたのだが、本研究では化工科が非常に良い結果が出たので一寸意外であった。これは上半分の6尺度と下半分の6尺度との平均の差についても同じ傾向が見られる。化工科についてはもっと詳しく検討して見たい。

(f) 類型別に見ると、全体にA類(平均型)が多く、次いでD類(D型)が多くE類(情緒不安定、不適応、内向)が極端に少なかった。総じて運動部が望ましい傾向にある様だ。

(g) これを学科別に見ると、やはりA類が多く、次いでD類が全体に多く、E類はほんのわずかしかない。これらの結果から学科の違いによる特徴を見つける事は出来なかった。

(h) 全般的に辻岡氏平均より、こんなにはっきりした有意差でD型寄りになる事は、予想していなかっただけに意外な結果であった。但し、典型のB型が5.3%、E型が1.1%、合わせて6.4%(89名)もあったという事は、この中には全部が全部でないにしても、かなり問題になる学生が相当数含まれているものと思われる。本学では本年4月に新入生全員にTPIを行なったので、本研究とは同一学生ではないが、比較出来れば、面白い結果が得られるのではないかとと思われる。

(i) 科別の調査数が、事情で極端にアンバランスなので、今後出来れば、少い学科の調査数を増して行なって見たい。又科別に特に差が見られなかった原因や、個人的な内容の検討、及び運動部の経験差による比較も、クラブの違いによる変化、経験年数の長短、経験したクラブ数との関係などについて、更に綿密な検討を加えて見たい。

尚検定の所に10%水準で有意であるというのが出てくる。10%というのはこの種の

鎌 田 英 爾

データーでは統計的にもあまり有意な数字ではないが比較の目安として一応加えておいた。

〔参考文献〕

1. 新性格検査法 辻岡美延著 昭和40年3月 竹井機器工業K. K.
2. 体育学研究（第10巻第2号） 日本体育学会編 昭和41年7月 日本体育学会
3. 例解統計学 立川清著 昭和33年1月 第一出版 K. K.

（本学講師 体育学）

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第1表 調査数(科別・経験別)

学科	経験グループ	無所属	文化部	無・文計	運動部1	運動部2	運動部3	運動部4	運動部5	運動部計	合計
機械科		2	17	19	5	4	8	14	14	45	64
生産科		10	19	20	25	20	10	23	17	95	124
化学科		20	45	65	26	18	8	26	15	93	158
化工科		20	24	44	17	25	11	12	11	76	120
電気科		15	40	55	29	3	21	21	15	89	144
電子科		123	79	202	48	64	19	53	27	211	413
建築科		41	55	96	37	37	23	44	25	166	262
設備科		40	0	40	12	28	1	20	3	64	104
計		271	279	550	199	199	101	213	127	839	1,389

第2表 経験別粗点平均と標準偏差(39年)

	運動部1	運動部2	運動部3	運動部4	運動部5	運動部計	無所属	文化部	無・文計	39年計	
D	9.589 5.199	9.439 5.216	9.182 4.700	8.953 5.291	9.833 5.033	9.369 5.173	9.581 5.026	10.141 5.447	9.742 5.157	9.536 5.169	$\bar{x}$ D
C	8.536 4.392	9.068 4.488	8.394 3.626	8.616 4.338	9.190 4.505	8.832 4.380	8.643 4.667	9.882 4.352	9.000 4.613	8.907 4.587	C
I	7.875 4.759	7.685 4.972	7.667 5.067	6.744 4.149	8.595 5.215	7.595 4.872	8.271 5.006	8.506 4.291	8.339 4.812	7.929 4.834	I
N	8.339 4.537	8.301 4.871	8.970 5.524	7.012 4.437	8.786 5.414	8.118 4.884	9.152 4.901	8.976 4.473	9.102 4.783	8.559 4.864	N
O	7.536 3.732	7.479 3.628	7.576 3.742	7.163 3.698	8.071 3.706	7.490 3.689	7.414 4.018	7.706 3.346	7.498 3.839	7.494 3.757	O
Co	7.500 3.635	7.534 3.651	7.848 3.791	7.686 3.352	7.881 3.607	7.634 3.591	8.495 3.857	7.976 3.619	8.346 3.831	7.953 3.717	Co
Ag	11.054 4.324	11.240 3.905	10.758 3.676	12.140 3.797	11.143 3.406	11.369 3.915	11.043 3.555	11.176 3.453	11.081 3.527	11.240 3.749	Ag
G	12.036 3.659	12.127 4.080	12.030 4.160	12.314 3.907	13.333 3.183	12.554 4.056	11.605 4.630	11.176 3.834	11.481 4.394	12.068 4.181	G
R	9.732 4.455	10.034 4.447	10.303 3.988	10.605 4.338	11.310 4.050	10.295 4.363	9.957 4.190	9.659 4.387	9.871 4.250	10.105 4.318	R
T	8.429 3.741	8.932 4.362	8.939 4.007	8.686 4.095	9.262 3.736	8.835 4.112	8.481 4.174	8.388 3.972	8.454 4.117	8.664 4.115	T
A	9.518 5.389	9.418 4.430	8.606 4.579	10.360 4.201	11.262 5.183	9.796 4.700	9.410 5.109	8.682 4.625	9.200 4.986	9.529 4.841	A
S	11.268 5.479	11.396 4.889	11.242 4.799	12.419 4.328	12.315 4.290	11.711 4.814	10.829 5.053	10.894 4.748	10.847 4.967	11.324 4.902	S
(N)	56	146	33	86	42	363	210	85	295	658	(N)



鎌 田 英 爾

第3表 経験別粗点平均と標準偏差(41年)

	運動部 1	運動部 2	運動部 3	運動部 4	運動部 5	運動部 計	無所属	文化部	無・文 計	41年計	
D	9.510 5.014	9.369 5.328	9.132 4.875	9.079 4.908	9.212 4.195	9.275 4.425	9.689 5.259	9.304 5.257	9.396 5.258	9.317 5.015	$\bar{x}$ D $\sigma$
C	9.224 4.152	8.962 4.758	8.985 4.474	9.709 4.396	9.082 3.669	9.265 4.324	10.246 4.526	8.825 4.137	9.165 4.280	9.230 4.297	C
I	7.497 4.258	7.340 4.551	7.921 4.904	6.661 4.196	7.200 4.384	7.265 4.416	8.770 4.598	7.882 4.422	8.094 4.488	7.553 4.458	I
N	8.902 4.650	8.132 5.195	8.926 4.819	8.386 4.789	8.576 5.049	8.624 4.845	9.574 5.234	9.149 4.688	9.251 4.827	8.843 4.847	N
O	8.028 3.758	7.264 3.727	7.750 3.578	8.283 3.621	8.576 3.330	8.069 3.654	7.803 3.607	8.108 3.917	8.035 3.847	8.057 3.722	O
Co	7.364 3.292	6.792 4.136	6.912 3.373	7.811 3.591	6.988 3.506	7.288 3.544	8.525 3.505	7.381 3.399	7.655 3.458	7.416 3.519	Co
Ag	11.161 3.188	11.019 4.012	10.868 3.780	12.079 4.331	11.071 3.605	11.330 3.541	11.115 3.147	10.536 3.256	10.675 3.239	11.101 3.453	Ag
G	12.028 4.028	11.943 3.769	11.721 3.929	12.559 4.131	12.412 4.111	12.185 4.040	10.770 4.614	11.567 4.166	11.376 4.302	11.903 4.139	G
R	10.706 3.949	11.038 3.806	11.265 4.310	11.441 4.688	10.800 4.303	11.036 4.257	10.607 4.068	10.103 3.759	10.224 3.839	10.752 4.129	R
T	8.846 4.255	9.943 4.132	9.706 3.808	8.701 4.328	8.835 3.831	9.050 4.151	10.131 4.389	8.784 4.113	9.106 4.220	9.070 4.112	T
A	9.476 4.758	9.416 4.415	8.897 4.077	10.165 4.595	10.059 4.388	9.675 4.540	7.164 4.193	9.619 4.852	9.031 4.818	9.450 4.638	A
S	12.028 4.463	11.736 5.032	12.147 4.016	12.929 4.707	12.647 4.835	12.363 4.624	10.410 5.097	12.263 4.613	11.820 4.798	12.174 4.679	S
(N)	143	53	68	127	85	476	61	194	255	731	(N)

第4表 経験別粗点平均と標準偏差(合計)及、辻岡平均

	運動部 1	運動部 2	運動部 3	運動部 4	運動部 5	運動部 計	無所属	文化部	無・文 計	合 計		辻岡平均
D	9.533 5.067	9.427 5.246	9.149 4.818	9.028 5.067	9.417 4.532	9.316 5.008	9.605 5.080	9.559 5.330	9.582 5.208	9.421 5.090	$\bar{x}$ D $\sigma$	11.23 5.51
C	9.030 4.232	9.040 4.562	8.792 4.225	9.268 4.411	9.039 4.106	9.077 4.343	9.004 4.684	9.147 4.235	9.076 4.548	9.077 4.391	C	9.98 4.99
I	7.603 4.407	7.593 4.866	7.832 4.960	6.695 4.178	7.661 4.721	7.406 4.600	8.384 4.922	8.072 4.398	8.225 4.666	7.731 4.644	I	8.97 5.52
N	8.744 4.600	8.256 4.940	8.941 5.062	7.831 4.698	8.646 5.173	8.405 4.869	9.247 4.981	9.097 4.624	9.171 4.804	8.708 4.858	N	9.72 5.35
O	7.889 3.757	7.422 3.656	7.693 3.634	7.831 3.725	8.409 3.467	7.819 3.680	7.502 3.933	7.986 3.757	7.747 3.852	7.791 3.750	O	8.11 4.38
Co	7.402 3.392	7.337 3.801	7.218 3.545	7.761 3.497	7.283 3.564	7.437 3.568	8.502 3.781	7.563 3.517	8.025 3.679	7.670 3.624	Co	8.34 4.06
Ag	11.131 3.544	11.181 3.935	10.832 3.747	12.099 3.578	11.094 3.588	11.347 3.707	11.059 3.468	10.731 3.331	10.893 3.403	11.167 3.597	Ag	10.87 4.25
G	12.030 3.928	12.116 4.010	11.822 4.008	12.864 4.059	12.717 3.853	12.341 3.999	11.417 4.614	11.448 4.080	11.433 4.352	11.981 4.166	G	10.85 5.16
R	10.432 4.121	10.302 4.308	10.950 4.232	11.103 4.568	10.969 4.228	10.715 4.325	10.103 4.169	9.968 3.967	10.035 4.069	10.446 4.238	R	9.96 4.85
T	8.729 4.121	9.201 4.322	9.455 3.891	8.695 4.236	8.976 3.805	8.957 4.135	8.852 4.279	8.663 4.075	8.756 4.178	8.878 4.153	T	8.16 4.62
A	9.487 4.943	9.417 4.426	8.802 4.250	10.244 4.441	10.457 4.700	9.727 4.610	8.904 5.007	9.333 4.804	9.122 4.910	9.487 4.740	A	8.52 5.53
S	11.814 4.786	11.487 4.930	11.851 4.309	12.723 4.564	12.535 4.667	12.081 4.718	10.734 5.066	11.846 4.697	11.298 4.914	11.771 4.812	S	10.23 5.48
(N)	199	199	101	213	127	839	271	279	550	1389	(N)	4136

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第5表 辻岡氏平均（上段）及び本学平均（下段）との差（39年）

	運動部 1	運動部 2	運動部 3	運動部 4	運動部 5	運動部 計	無所属	文化部	無・文 計	39年計	
D	-1.64 ⊕0.17	-1.79 ⊕0.02	-2.05 -0.24	-2.28 -0.47	-1.40 ⊕0.41	-1.86 -0.05	-1.65 ⊕0.16	-1.09 ⊕0.72	-1.49 ⊕0.32	-1.69 ⊕0.12	D
C	-1.44 -0.54	-0.91 -0.01	-1.59 -0.69	-1.36 -0.36	-0.79 ⊕0.11	-1.15 -0.25	-1.34 -0.44	-0.10 ⊕0.80	-0.98 -0.08	-1.07 -0.17	C
I	-1.09 ⊕0.15	-1.28 -0.04	-1.30 -0.06	-2.23 -0.01	-0.37 ⊕0.87	-1.37 -0.13	-0.70 ⊕0.54	-0.46 ⊕0.78	-0.63 ⊕0.61	-1.04 ⊕0.20	I
N	-1.38 -0.37	-1.42 -0.41	-0.75 0.26	-2.71 -1.70	-0.93 ⊕0.08	-1.60 -0.59	-0.57 ⊕0.44	-0.74 ⊕0.27	-0.62 ⊕0.39	-1.16 -0.05	N
O	-0.57 -0.25	-0.63 -0.31	-0.53 -0.21	-0.95 -0.63	-0.04 ⊕0.28	-0.62 -0.30	-0.70 -0.38	-0.40 -0.08	-0.61 -0.29	-0.62 -0.30	O
Co	-0.84 -0.17	-0.81 -0.14	-0.49 ⊕0.18	-0.65 ⊕0.02	-0.46 ⊕0.21	-0.71 -0.04	⊕0.16 ⊕0.83	-0.36 ⊕0.31	⊕0.01 ⊕0.68	-0.39 ⊕0.28	Co
Ag	+0.18 ⊖0.12	+0.37 ⊕0.07	⊖0.11 ⊖0.59	+1.27 +0.97	+0.27 ⊖0.03	+0.50 +0.20	+0.17 ⊖0.13	+0.31 ⊕0.01	+0.21 ⊖0.09	+0.37 ⊖0.07	Ag
G	+1.19 +0.06	+1.32 +0.19	+1.18 +0.05	+1.46 +0.33	+2.48 +1.35	+1.70 +0.57	+0.76 ⊖0.37	+0.33 ⊖0.80	+0.63 ⊖0.50	+1.22 +0.09	G
R	⊖0.23 ⊖0.72	+0.07 ⊖0.42	+0.34 ⊖0.15	+0.65 +0.16	+1.35 +0.86	+0.34 ⊖0.15	± 0 ⊖0.49	⊖0.30 ⊖0.79	⊖0.09 ⊖0.58	+1.95 ⊖0.34	R
T	+0.72 ⊖0.45	+0.77 +0.05	+0.78 +0.06	+0.53 ⊖0.19	+1.10 +0.38	+0.68 ⊖0.04	+0.32 ⊖0.40	+0.23 ⊖0.49	+0.29 ⊖0.43	+0.50 ⊖0.22	T
A	+1.00 +0.03	+0.90 ⊖0.07	+0.09 ⊖0.88	+1.84 +0.87	+2.74 +1.77	+1.28 +0.31	+0.89 ⊖0.08	+0.16 ⊖0.81	+0.68 ⊖0.29	+1.01 +0.04	A
S	+1.04 ⊖0.50	+1.17 ⊖0.37	+1.01 ⊖0.53	+2.19 +0.65	+2.08 +0.54	+1.48 ⊖0.06	+0.60 ⊖0.94	+0.66 ⊖0.88	+0.62 ⊖0.92	+1.09 ⊖0.45	S
(N)	56	146	33	86	42	363	210	85	295	658	(N)

第6表 辻岡氏平均（上段）及び本学平均（下段）との差（41年）

	運動部 1	運動部 2	運動部 3	運動部 4	運動部 5	運動部 計	無所属	文化部	無・文 計	41年計	
D	-1.72 ⊕0.09	-1.83 -0.02	-2.10 -0.29	-2.15 -0.34	-2.02 -0.21	-1.95 -0.14	-1.54 ⊕0.27	-1.93 -0.12	-1.83 -0.02	-1.91 -0.10	D
C	-0.76 ⊕0.14	-1.02 -0.12	-0.99 -0.09	-0.27 ⊕0.63	-0.90 ± 0	-0.71 ⊕0.19	⊕0.27 ⊕1.17	-1.15 -0.25	-0.81 ⊕0.09	-0.75 ⊕0.15	C
I	-1.47 -0.23	-1.63 -0.39	-1.05 ⊕0.19	-2.31 -1.07	-1.77 -0.53	-1.70 -0.46	-0.20 ⊕1.04	-1.09 ⊕0.15	-0.88 ⊕0.36	-1.42 -0.18	I
N	-0.82 ⊕0.19	-1.59 -0.58	-0.79 ⊕0.22	-1.33 -0.32	-1.14 -0.13	-1.10 -0.09	-0.15 ⊕0.86	-0.57 ⊕0.44	-0.47 ⊕0.54	-0.88 ⊕0.13	N
O	-0.08 ⊕0.24	-0.85 -0.53	-0.36 -0.04	⊕0.17 ⊕0.49	⊕0.47 ⊕0.79	-0.04 ⊕0.28	-0.31 ⊕0.01	± 0 ⊕0.32	-0.07 ⊕0.25	-0.05 ⊕0.27	O
Co	-0.98 -0.31	-1.55 -0.88	-1.43 -0.76	-0.53 ⊕0.14	-1.35 -0.68	-1.05 -0.38	⊕0.19 ⊕0.86	-0.96 -0.29	-0.68 -0.01	-0.92 -0.25	Co
Ag	+0.29 ⊖0.01	+0.15 ⊖0.15	± 0 ⊖0.30	+1.21 +0.91	+0.20 ⊖0.10	+0.46 +0.16	+0.25 ⊖0.05	⊖0.33 ⊖0.63	⊖0.19 ⊖0.49	+0.23 ⊖0.07	Ag
G	+1.18 +0.05	+1.09 ⊖0.04	+0.87 ⊖0.26	+1.71 +0.58	+1.56 +0.43	+1.34 +0.21	⊖0.08 ⊖1.21	+0.72 ⊖0.41	+0.53 ⊖0.60	+1.05 ⊖0.08	G
R	⊖0.75 +0.26	+1.08 +0.58	+1.31 +0.82	+1.84 +0.99	+0.84 +0.35	+1.08 +0.59	+0.65 +0.16	+0.14 ⊖0.35	+0.24 ⊖0.23	+0.79 +0.30	R
T	+0.69 ⊖0.03	+1.78 +1.06	+1.55 +0.83	+0.54 ⊖0.18	+0.68 ⊖0.04	+0.89 +0.17	+1.97 +0.25	+0.62 ⊖0.10	+0.95 ⊕0.23	+0.91 +0.19	T
A	+0.96 ⊖0.01	+0.90 ⊖0.07	+0.38 ⊖0.59	+1.65 +0.68	+1.53 +0.57	+1.16 +0.19	⊖1.36 ⊖2.33	+1.10 +0.13	+0.51 ⊖0.46	+0.98 ⊖0.04	A
S	+1.80 +0.26	+1.51 ⊖0.03	+1.92 +0.38	+2.70 +1.16	+2.42 +0.88	+2.13 +0.59	+0.18 ⊖1.36	+2.03 +0.49	+1.59 +0.05	+1.94 +0.40	S
(N)	143	53	68	127	85	476	61	194	255	731	(N)

鎌 田 英 爾

第7表 辻岡氏平均（上段）及び本学平均（下段）との差（合計）

	運動部 1	運動部 2	運動部 3	運動部 4	運動部 5	運動部 計	無所属	文化部	無・文 計	39・41 合 計	
D	-1.70 ⊕0.11	-1.80 ⊕0.01	-2.08 -0.27	-2.20 -0.39	-1.81 ± 0	-1.91 -0.10	-1.62 ⊕0.19	-1.67 ⊕0.14	-1.65 ⊕0.16	-1.81 —	D
C	-0.95 -0.05	-0.94 -0.04	-1.19 -0.29	-0.71 ⊕0.19	-0.94 -0.04	-0.90 ± 0	-0.98 -0.08	-0.83 ⊕0.07	-0.90 ± 0	-0.90 —	C
I	-1.37 -0.10	-1.38 -0.11	-1.14 ⊕0.10	-2.27 -0.03	-1.31 -0.07	-1.56 -0.32	-0.59 ⊕0.65	-0.90 ⊕0.34	-0.74 ⊕0.50	-1.24 —	I
N	-0.98 ⊕0.03	-1.46 -0.45	-0.78 ⊕0.23	-1.89 -0.88	-1.07 -0.06	-1.31 -0.30	-0.47 ⊕0.54	-0.62 ⊕0.39	-0.55 ⊕0.46	-1.01 —	N
O	-0.22 ⊕0.10	-0.69 -0.37	-0.42 -0.10	-0.28 ⊕0.04	⊕0.30 ⊕0.62	-0.29 -0.03	-0.61 -0.29	-0.12 ⊕0.20	-0.36 -0.04	-0.31 —	O
Co	-0.94 -0.27	-1.00 -0.33	-1.12 -0.45	-0.58 ⊕0.09	-1.06 -0.39	-0.90 -0.23	⊕0.16 ⊕0.83	-0.78 -0.11	-0.31 ⊕0.36	-0.67 —	Co
Ag	+0.26 ⊖0.04	+0.31 +0.01	⊖0.04 ⊖0.34	+1.23 +0.93	+0.22 ⊖0.08	+0.48 +0.18	+0.19 ⊖0.11	⊖0.14 ⊖0.44	+0.02 ⊖0.28	+0.30 —	Ag
G	+1.18 +0.05	+1.27 +0.14	+0.97 ⊖0.16	+2.01 +0.88	+1.87 +0.74	+1.49 +0.36	+0.57 ⊖0.56	+0.60 ⊖0.53	+0.58 ⊖0.55	+1.13 —	G
R	+0.47 ⊖0.02	+0.34 ⊖0.15	+0.99 +0.50	+1.14 +0.65	+1.01 +0.52	+0.76 +0.27	+0.14 ⊖0.35	+0.01 ⊖0.48	+0.08 ⊖0.41	+0.49 —	R
T	+0.57 ⊖0.15	+1.04 +0.32	+1.30 +0.58	+0.54 ⊖0.18	+0.82 +0.10	+0.80 +0.08	+0.69 ⊖0.03	+0.50 ⊖0.22	+0.58 ⊖0.12	+0.72 —	T
A	+0.97 ± 0	+0.90 ⊖0.07	+0.28 ⊖0.69	+1.72 +0.75	+1.94 +0.97	+1.21 +0.24	+0.38 ⊖0.59	+0.81 ⊖0.16	+0.60 ⊖0.37	+0.97 —	A
S	+1.58 +0.04	+1.26 ⊖0.28	+1.62 +0.08	+2.49 +0.95	+2.31 +0.77	+1.85 +0.31	+0.50 ⊖1.04	+1.62 +0.08	+1.07 ⊖0.47	+1.54 —	S
(N)	199	199	101	213	127	839	271	279	550	1389	(N)

第8表 学科別粗点平均と標準偏差(39年)

	生産科	化学科	化工科	電子科	建築科	設備科	...
D	9.981 5.007	9.825 4.891	8.556 5.039	9.556 5.236	11.563 5.129	9.279 5.102	... $\bar{x}$ ... $\sigma$
C	9.661 3.972	9.350 4.261	9.236 4.105	8.633 4.624	9.971 4.612	9.231 4.198	
I	7.453 4.733	9.225 4.298	7.722 4.970	7.766 4.840	8.524 4.983	7.712 4.667	
N	7.321 4.629	9.200 4.976	8.014 4.718	8.692 4.867	9.359 4.809	8.202 4.835	
O	7.415 3.293	8.400 3.820	7.208 3.851	7.517 3.845	7.612 3.887	7.462 3.627	
Co	6.623 2.444	8.475 3.701	7.722 4.124	8.245 3.688	7.893 4.100	7.865 3.481	
Ag	11.962 3.404	10.400 3.625	11.125 3.440	11.315 3.827	11.680 3.428	11.183 3.961	
G	12.623 3.676	11.100 4.624	12.792 3.586	12.024 4.359	11.709 3.772	12.327 4.471	
R	10.811 3.603	10.000 4.201	10.083 4.228	10.168 4.318	9.845 4.519	10.000 4.506	
T	9.264 3.972	9.375 3.709	9.250 4.810	8.297 3.986	8.175 4.016	9.433 4.106	
A	9.075 4.538	8.050 4.489	9.875 4.570	9.444 4.895	8.728 4.125	10.260 5.101	
S	11.774 4.661	10.825 4.716	12.000 4.295	11.339 5.124	11.039 4.756	11.173 4.958	
(N)	53	40	72	286	103	104	

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第9表 学科別粗点平均と標準偏差(41年)

	機械科	生産科	化学科	化工科	電気科	電子科	建築科	...
D	7.781 4.564	10.239 4.030	9.271 4.938	9.292 5.434	9.424 4.864	9.661 5.197	9.252 5.391	... $\bar{x}$ ... $\sigma$
C	9.078 4.525	8.789 3.411	9.644 4.352	9.042 4.406	9.813 3.882	9.323 4.317	8.566 4.561	
I	7.891 4.764	7.239 3.191	8.246 4.339	6.896 4.903	8.333 4.236	7.402 4.471	6.623 4.698	
N	8.094 5.231	8.606 3.803	9.347 4.816	7.896 3.944	9.458 4.906	9.094 4.888	8.535 5.313	
O	7.406 2.782	8.310 3.706	8.297 4.101	7.646 3.977	8.174 3.816	8.134 3.941	7.893 3.485	
Co	6.297 2.344	8.000 3.476	7.398 3.278	7.458 3.564	7.681 3.537	7.528 3.534	7.327 3.827	
Ag	9.875 3.956	11.127 2.701	10.907 3.427	11.854 3.129	11.146 3.448	10.717 3.464	11.767 3.446	
G	11.796 4.607	11.704 3.625	11.542 4.202	12.125 4.590	11.799 3.933	11.386 3.976	12.723 4.163	
R	10.609 4.322	11.352 3.820	10.178 3.989	11.812 4.419	11.292 3.649	10.331 4.481	10.447 4.224	
T	9.687 4.190	9.831 3.263	9.042 4.087	9.938 3.502	9.188 4.052	8.110 4.568	8.761 4.379	
A	9.697 4.821	10.184 3.984	8.517 5.503	10.354 4.811	9.243 4.548	9.276 4.581	9.937 4.778	
S	12.266 5.096	13.169 4.024	11.305 4.837	12.667 4.579	12.493 4.422	11.591 4.981	12.528 4.596	
(N)	64	71	118	48	144	127	159	

第10表 学科別粗点平均と標準偏差(合計)

	機械科	生産科	化学科	化工科	電気科	電子科	建築科	設備	...
D	7.781 4.564	9.702 4.405	9.411 4.939	8.850 5.220	9.424 4.864	9.596 5.226	9.766 5.330	9.279 5.102	... $\bar{x}$ ... $\sigma$
C	9.078 4.525	8.734 3.522	9.570 4.320	9.158 4.237	9.813 3.882	8.843 4.546	9.118 4.663	9.231 4.198	
I	7.891 4.764	7.331 3.797	8.494 4.350	7.392 4.971	8.333 4.236	7.654 4.733	7.370 4.901	7.712 4.667	
N	8.094 5.231	8.056 4.104	9.310 4.863	7.967 4.433	9.458 4.906	8.816 4.877	8.859 5.140	8.202 4.835	
O	7.406 2.782	7.927 3.420	8.323 4.032	7.383 3.916	8.174 3.816	7.707 3.886	7.782 3.592	7.462 3.627	
Co	6.297 2.344	7.411 2.791	7.671 3.423	7.617 3.912	7.681 3.537	8.024 3.656	7.550 3.954	7.865 3.481	
Ag	9.875 3.956	11.484 2.881	11.411 3.281	11.417 3.338	11.146 3.448	11.000 3.767	11.733 3.439	11.183 3.961	
G	11.796 4.607	12.113 3.527	11.430 4.285	12.525 4.033	11.799 3.933	11.828 4.255	12.324 4.045	12.327 4.471	
R	10.609 4.322	11.121 3.739	10.133 4.044	10.775 4.392	11.292 3.649	10.218 4.369	10.210 4.353	10.000 4.506	
T	9.687 4.190	9.589 3.597	9.108 4.993	9.525 4.313	9.188 4.052	8.240 4.173	8.531 4.251	9.433 4.106	
A	9.697 4.821	9.500 4.266	8.399 4.629	10.067 4.676	9.243 4.548	9.392 4.801	9.462 4.571	10.260 5.101	
S	12.266 5.096	12.573 4.363	11.184 4.811	12.267 4.427	12.493 4.422	11.416 5.084	11.939 4.718	11.173 4.958	
(N)	64	124	158	120	144	413	262	104	

鎌 田 英 爾

第11表 辻岡氏平均（上段）及び本学平均（下段）との差（39年）

	生産科	化学科	化工科	電子科	建築科	設備科
D	-1.25 ⊕0.56	-1.40 ⊕0.41	-2.67 -0.86	-1.66 ⊕0.15	⊕0.33 ⊕2.14	-1.95 -0.14
C	-0.32 ⊕0.58	-0.63 ⊕0.27	-0.74 ⊕0.16	-1.35 -0.45	-0.01 ⊕0.89	-0.75 ⊕0.15
I	-1.52 -0.28	⊕0.26 ⊕1.50	-1.25 -0.01	-1.20 ⊕0.04	-0.45 ⊕0.79	-1.26 -0.02
N	-2.40 -1.39	-0.52 ⊕0.49	-1.71 -0.70	-1.03 -0.02	-0.36 ⊕0.65	-1.52 -0.51
O	-0.69 -0.37	⊕0.29 ⊕0.61	-0.90 -0.58	-0.59 -0.27	-0.50 -0.18	-0.65 -0.33
Co	-1.72 -1.05	⊕0.14 ⊕0.81	-0.62 ⊕0.05	-0.09 ⊕0.58	-0.45 ⊕0.22	-0.47 ⊕0.20
Ag	+1.09 +0.79	⊖0.47 ⊖0.77	+0.26 ⊖0.04	+0.45 +0.15	+0.81 +0.51	+0.31 +0.01
G	+1.77 +0.64	+0.25 ⊖0.88	+1.94 +0.81	+1.17 +0.04	+0.86 ⊖0.27	+1.48 +0.35
R	+0.85 +0.36	+0.04 ⊖0.45	+0.12 ⊖0.37	+0.21 ⊖0.28	⊖0.11 ⊖0.60	+0.04 ⊖0.45
T	+1.10 +0.38	+1.22 +0.50	+1.09 +0.37	+0.14 ⊖0.58	+0.02 ⊖0.70	+1.27 +0.55
A	+0.56 ⊖0.41	⊖0.47 ⊖1.44	+1.36 +0.39	+0.92 ⊖0.05	+0.21 ⊖0.24	+1.74 +0.77
S	+1.54 ± 0	+0.60 ⊖0.93	+1.77 +0.23	+1.11 ⊖0.43	+0.81 ⊖0.73	+0.94 ⊖0.60
(N)	53	40	72	286	103	104

第12表 辻岡氏平均（上段）及び本学平均（下段）との差（41年）

	機械科	生産科	化学科	化工科	電気科	電子科	建築科
D	-3.45 -1.64	-0.99 ⊕0.82	-1.96 -0.15	-1.94 -0.13	-1.81 ± 0	-1.57 ⊖0.24	-1.98 -0.17
C	-0.90 ± 0	-1.19 -0.29	-0.34 ⊕0.56	-0.94 -0.04	-0.17 ⊕0.73	-0.66 ⊕0.24	-1.41 -0.51
I	-1.08 ⊕0.16	-1.73 -0.49	-0.72 ⊕0.52	-2.07 ⊕0.83	-0.64 ⊕0.60	-1.54 -0.33	-2.35 -1.11
N	-1.63 -0.62	-1.11 -0.10	-0.37 ⊕0.54	-1.82 -0.81	-0.26 ⊕0.75	-0.63 ⊕0.78	-1.18 -0.17
O	-0.70 -0.38	⊕0.20 ⊕0.52	⊕0.19 ⊕0.51	-0.46 -0.14	⊕0.06 ⊕0.38	⊕0.02 ⊕0.34	-0.22 ⊕0.10
Co	-2.04 -1.37	-0.34 ⊕0.33	-0.94 -0.27	-0.88 -0.21	-0.66 ⊕0.01	-0.81 -0.14	-1.01 -0.34
Ag	⊖0.99 ⊖1.29	+0.26 ⊖0.04	+0.04 ⊖0.26	+0.98 +0.68	+0.28 ⊖0.02	⊖0.15 ⊖0.45	+0.90 +0.60
G	+0.95 ⊖0.18	+0.85 ⊖0.28	+0.69 ⊖0.44	+1.28 +0.15	+0.95 ⊖0.18	+0.54 ⊕0.59	+1.87 +0.74
R	+0.65 +0.16	+1.39 +0.90	+0.22 ⊖0.27	+1.85 +1.36	+1.33 +0.84	+0.37 ⊖0.12	+0.49 ± 0
T	+1.53 +0.81	+1.67 +0.95	+0.88 +0.17	+1.78 +1.07	+1.03 +0.31	⊖0.05 ⊖0.77	+0.60 ⊖0.12
A	+1.18 +0.21	+1.66 +0.69	± 0 ⊖0.92	+1.83 +0.85	+0.72 ⊖0.25	+0.76 ⊖0.21	+1.42 +0.48
S	+2.04 +0.50	+2.94 +1.40	+1.08 ⊖0.46	+2.44 +0.90	+2.26 +0.72	+1.36 ⊖0.18	+2.30 +0.76
(N)	64	71	118	48	144	127	159

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第13表 辻岡氏平均（上段）及び本学平均（下段）との差（合計）

	機 械 科	生 産 科	化 学 科	化 工 科	電 気 科	電 子 科	建 築 科	設 備 科
D	-3.45 -1.64	-1.53 ⊕0.28	-1.82 -0.01	-2.38 -0.57	-1.81 ± 0	-1.63 ⊕0.18	-1.46 ⊕0.35	-1.95 -0.14
C	-0.90 ± 0	-1.25 -0.35	-0.41 ⊕0.49	-0.82 ⊕0.08	-0.17 ⊕0.73	-1.14 -0.24	-0.86 ⊕0.04	-0.75 ⊕0.15
I	-1.08 ⊕0.16	-1.64 -0.40	-0.48 ⊕0.76	-1.58 -0.34	-0.64 ⊕0.60	-1.32 -0.08	-1.60 -0.36	-1.26 -0.02
N	-1.63 -0.62	-1.66 -0.65	-0.41 ⊕0.60	-1.75 -0.74	-0.26 ⊕0.75	-0.90 ⊕0.11	-0.86 ⊕0.15	-1.52 -0.51
O	-0.70 -0.38	-0.18 ⊕0.14	⊕0.21 ⊕0.63	-0.73 -0.41	⊕0.06 ⊕0.38	-0.40 -0.08	-0.33 -0.01	-0.65 -0.33
Co	-2.04 -1.37	-0.93 -0.26	-0.67 ± 0	-0.72 -0.05	-0.66 ⊕0.01	-0.32 ⊕0.35	-0.79 -0.12	-0.47 ⊕0.20
Ag	⊖0.99 ⊖1.29	+0.61 +0.31	+0.54 +0.24	+0.55 +0.25	+0.28 ⊖0.02	+0.13 ⊖0.17	+0.86 +0.56	+0.31 +0.01
G	+0.95 ⊖0.18	+1.26 +0.13	+0.58 ⊖0.55	+1.68 +0.55	+0.95 ⊖0.18	+0.98 ⊖0.15	+1.47 +0.34	+1.48 +0.35
R	+0.65 +0.16	+1.16 +0.67	+0.17 ⊖0.32	+0.82 +0.33	+1.33 +0.84	+0.26 ⊖0.23	+0.25 ⊖0.24	+0.04 ⊖0.45
T	+1.53 +0.81	+1.43 +0.71	+0.95 +0.23	+1.37 +0.65	+1.03 +0.31	+0.08 ⊖0.64	+0.37 ⊖0.35	+1.27 +0.55
A	+1.18 +0.21	+0.98 +0.01	⊖0.12 ⊖0.09	+1.55 +0.58	+0.72 ⊖0.25	+0.87 ⊖0.10	+0.94 ⊖0.03	+1.74 +0.77
S	+2.04 +0.50	+2.34 +0.80	+0.95 ⊖0.59	+2.04 +0.50	+2.26 +0.72	+1.19 ⊖0.35	+1.71 +0.17	+0.94 ⊖0.60
(N)	64	124	158	120	144	413	262	104

第14表 上6尺度と下6尺度の差

		運動部 1	運動部 2	運動部 3	運動部 4	運動部 5	運動部 計	無所属	文化部	無・文 計	合 計
39	差	12.662	13.686	12.241	20.350	16.264	15.522	9.769	6.788	8.907	12.552
年	平 均	2.110	2.281	2.040	3.392	2.711	2.587	1.628	1.131	1.485	2.092
41	差	13.720	17.209	14.978	17.945	16.190	15.853	5.590	12.223	10.636	14.034
年	平 均	2.287	2.868	2.496	2.991	2.698	2.642	0.932	2.037	1.773	2.339
合	差	13.422	14.629	14.087	19.314	16.214	15.708	8.825	10.565	9.711	13.332
計	平 均	2.237	2.438	2.348	3.219	2.702	2.618	1.471	1.761	1.619	2.222

第15表 上6尺度と下6尺度の差

		機械科	生産科	化学科	化工科	電気科	電子科	建築科	設備科	辻岡氏 平 均
39	差		17.055	5.275	16.667		12.168	6.254	14.625	
年	平 均		2.843	0.879	2.778		2.028	1.042	2.438	
41	差	17.383	16.184	9.288	20.020	12.278	10.159	17.967		
年	平 均	2.897	2.697	1.544	3.337	2.046	1.693	2.995		
合	差	17.383	16.556	8.886	18.209	12.278	11.454	13.754	14.625	2.240
計	平 均	2.897	2.759	1.481	3.035	2.046	1.909	2.292	2.438	0.373

第16表 辻岡氏平均と本学グループ各尺度間の検定

尺 度	運動部	文化部	無所属	合 計
D	××	××	××	××
C	××	×	××	××
I	××	×	(△)	××
N	××	(△)		××
O	(△)		△△	×
Co	××	××		××
Ag	××			
G	××	(△)	(△)	××
R	××			××
T	××	(△)	△△	××
A	××	△△		××
S	××	××		××

××…-0.5% ×…1% △△…5%

\*(△)…10%

第17表 辻岡氏平均と本学グループ各因子グループとの検定

因子グループ	運 動 部	文化部	無所属	合 計
DCIN	××	△△	××	××
OCoAg	(△)			(△)
AgG	××(△△)	(△△)		××
GR	××(△△)	(△△)	(△)	××
RT	××			××
AS	×× (△)	××	(×)	××

( ) は本学合計と各グループとの検定

××…-0.5% ×…1% △△…5% (△)…10%

第18表 本学合計と各経験グループとの検定

39 年				41 年			合 計			
尺 度	運動部	文化部	無所属	運動部	文化部	無所属	運動部	文化部	無所属	尺 度
D										D
C		△△				(△)				C
I						△△	△△		△△	I
N	(△)		(△)				(△)		(△)	N
O										O
Co						△△	(△)		××	Co
Ag					△△			△△		Ag
G	△△	△△				△△	△△	△△	△△	G
R					△△		(△)	(△)		R
T						△△				T
A		(△)				××			△△	A
S						××	(△)		××	S

××…-0.5%水準 ×…1%水準 △△…5%水準 (△)…10%水準

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第19表 経験グループ相互の検定

	39 年			41 年			合 計			
尺 度	運 と 文	運 と 無	文 と 無	運 と 文	運 と 無	文 と 無	運 と 文	運 と 無	文 と 無	尺 度
D C I N O Co	△△ (△)	△△  ×	△△	×× ×× ××	× ×× (△) ××	××	△△ △△	×× △△ ××	××	D C I N O Co
Ag G R T A S	××	△△  △△		××	××	× (△) ××	× ××	××	×	Ag G R T A S

××…0.5%水準 ×…1%水準 △△…5%水準 (△)…10%水準



鎌 田 英 爾

第20表 経験グループ別の類型 (39年)

経験	無 所 属			文 化 部			無・文 計			運 動 部			総 計			経験
類型	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	類型
A	12	5.7	61	7	8.2	37	19	6.4	98	15	4.1	91	34	5.2	189	A
A'	12	5.7		12	14.1		24	8.1		22	6.1		46	7.0		A'
A''	37	17.6	29.0	18	21.2	43.5	55	18.6	33.2	54	14.9	25.1	109	16.6	28.7	A''
B	13	6.2	58	7	8.2	20	20	6.8	78	32	8.8	81	52	7.9	159	B
B'	34	16.2		10	11.8		44	14.9		36	9.9		80	12.2		B'
AB	11	5.2	27.6	3	3.5	23.5	14	4.7	26.4	13	3.6	22.3	27	4.1	24.2	AB
C	16	7.6	46	3	3.5	9	19	6.4	55	34	9.4	84	53	8.1	139	C
C'	7	3.3		0	0		7	2.4		12	3.3		19	2.9		C'
AC	23	11.0	21.9	6	7.1	10.6	29	9.8	18.6	38	10.5	23.1	67	10.2	21.1	AC
D	2	1.0	40	1	1.2	16	3	1.0	56	8	2.2	96	11	1.7	152	D
D'	25	11.9		10	11.8		35	11.9		63	17.4		98	14.9		D'
AD	13	6.2	19.0	5	5.9	18.8	18	6.1	19.0	25	6.9	26.4	43	6.5	23.1	AD
E	1	0.5	5	0	0	3	1	0.3	8	0	0	11	1	0.2	19	E
E'	4	1.9		2	2.4		6	2.0		9	2.5		15	2.3		E'
AE	0	0	2.4	1	1.2	3.5	1	0.3	2.7	2	0.6	3.0	3	0.5	2.9	AE
(N)	210			85			295			363			658			(N)
	頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		
典型	44	21.0		18	21.2		62	21.0		89	24.5		151	22.9		典型
準型	82	39.0		34	40.0		116	39.3		142	39.1		258	39.2		準型
亜型	84	40.0		33	38.8		117	39.7		132	36.4		249	37.9		亜型

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第21表 経験グループ別の類型 (41年)

経験 類型	無 所 属			文 化 部			無・文 計			運 動 部			総 計			経験 類型
	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	
A	8	13.1	20	15	7.7	66	23	9.0	86	37	7.8	134	60	8.2	220	A
A'	6	9.8		17	8.8		23	9.0		41	8.6		64	8.8		A'
A''	6	9.8	32.8	34	17.5	34.0	40	15.7	33.7	56	11.8	28.2	96	13.1	30.1	A''
B	1	1.6	7	7	3.6	25	8	3.1	32	14	2.9	71	22	3.0	103	B
B'	5	8.2		8	4.1		13	5.1		26	5.5		39	5.3		B'
AB	1	1.6	11.5	10	5.2	12.9	11	4.3	12.5	31	6.5	14.9	42	5.7	14.1	AB
C	3	4.9	9	10	5.2	28	13	5.1	37	20	4.2	67	33	4.5	104	C
C'	2	3.3		10	5.2		12	4.7		14	2.9		26	3.6		C'
AC	4	6.6	14.8	8	4.1	14.4	12	4.7	14.5	33	6.9	14.1	45	6.2	14.2	AC
D	8	13.1	13	11	5.7	58	19	7.5	71	48	10.1	162	67	9.2	233	D
D'	2	3.3		31	16.0		33	12.9		78	16.4		111	15.2		D'
AD	3	4.9	21.3	16	8.2	29.9	19	7.5	27.8	36	7.6	34.0	55	7.5	31.9	AD
E	3	4.9	12	4	2.1	17	7	2.7	29	7	1.5	42	14	1.9	71	E
E'	7	11.5		11	5.7		18	7.1		22	4.6		40	5.5		E'
AE	2	3.3	19.7	2	1.0	8.8	4	1.6	11.4	13	2.7	8.8	17	2.3	9.7	AE
(N)	61			194			255			476			731			(N)
	頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		
典型	23	37.1		47	24.2		70	27.5		126	26.5		196	26.8		典型
準型	22	36.1		77	39.7		99	38.8		181	38.0		280	38.3		準型
亜型	16	26.2		70	36.1		86	33.7		169	35.5		255	34.9		亜型

鎌 田 英 爾

第22表 経験グループ別の類型（合計）

経 験	無 所 属			文 化 部			無・文 計			運 動 部			総 計			経 験
類 型	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	類 型
A	20	7.4	81	22	7.9	103	42	7.6	184	52	6.2	225	94	6.8	409	A
A'	18	6.6		29	10.4		47	8.5		63	7.5		110	7.9		A'
A''	43	15.9	29.9	52	18.6	36.9	95	17.3	33.5	110	13.1	26.8	205	14.8	29.4	A''
B	14	5.2	65	14	5.0	45	28	5.1	110	46	5.5	152	74	5.3	262	B
B'	39	14.4		18	6.5		57	10.4		62	7.4		119	8.6		B'
AB	12	4.4	24.0	13	4.7	16.1	25	4.5	20.0	44	5.2	18.1	69	5.0	18.9	AB
C	19	7.0	55	13	4.7	37	32	5.8	92	54	6.4	151	86	6.2	243	C
C'	9	3.3		10	3.6		19	3.5		26	3.1		45	3.2		C'
AC	27	10.0	20.3	14	5.0	13.3	41	7.5	16.7	71	8.5	18.0	112	8.1	17.5	AC
D	10	3.7	53	12	4.3	74	22	4.0	127	56	6.7	258	78	5.6	385	D
D'	27	10.0		41	14.7		68	12.4		141	16.8		209	15.0		D'
AD	16	5.9	19.6	21	7.5	26.5	37	6.7	23.1	61	7.3	30.8	98	7.1	27.7	AD
E	4	1.5	17	4	1.4	20	8	1.5	37	7	0.8	53	15	1.1	90	E
E'	11	4.1		13	4.7		24	4.4		31	3.7		55	4.0		E'
AE	2	0.7	6.3	3	1.1	7.2	5	0.9	6.7	15	1.8	6.3	20	1.4	6.5	AE
(N)	271			279			550			839			1389			(N)
	頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		頻 数	%		
典型	67	24.7		65	23.3		132	24.0		215	25.6		347	25.0		典型
準型	104	38.4		111	39.8		215	39.1		323	38.5		538	38.7		準型
亜型	100	36.9		103	36.9		203	36.9		301	35.9		504	36.3		亜型

工学院大学新入生の Yatabe-Guilford 性格検査法による性格

第23表 学科別・類型 (39年)

学 科	生産機械科			化 学 科			化 工 科			電 子 科			建 築 科			設 備 科			学 科
	類 型	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	頻 数	%	頻数 %	類 型		
A	2	3.8	15	0	0	14	4	5.6	22	16	5.6	77	6	5.8	35	6	5.8	28	A
A'	1	1.9	—	6	15.0	—	6	8.3	—	21	7.3	—	6	5.8	—	4	3.8	—	A'
A''	12	22.6	28.3	8	20.0	35.0	12	16.7	30.6	40	14.0	26.9	23	22.3	34.0	18	17.3	26.9	A''
B	2	3.8	8	4	10.0	10	3	4.2	17	24	8.4	69	12	11.7	31	7	6.7	23	B
B'	5	9.4	—	5	12.5	—	6	8.3	—	36	12.6	—	15	14.6	—	10	9.6	—	B'
AB	1	1.9	15.1	1	2.5	25.0	8	11.1	23.6	9	3.1	24.1	4	3.9	30.1	6	5.8	22.1	AB
C	4	7.5	11	1	2.5	6	9	12.5	17	23	8.0	62	5	4.9	15	11	10.6	29	C
C'	0	0	—	1	2.5	—	2	2.8	—	5	1.7	—	4	3.9	—	7	6.7	—	C'
AC	7	13.2	20.8	4	10.0	15.0	6	8.3	23.6	34	11.9	24.5	6	5.8	14.6	11	10.6	27.8	AC
D	0	0	18	1	2.5	6	1	1.4	16	6	2.1	70	1	1.0	21	1	1.0	21	D
D'	11	20.8	—	2	5.0	—	11	15.3	—	48	16.8	—	15	14.6	—	11	10.6	—	D'
AD	7	13.2	34.0	3	7.5	15.0	4	5.6	22.2	16	5.6	24.5	5	4.9	20.4	9	8.7	20.2	AD
E	0	0	1	0	0	4	0	0	0	1	0.3	8	0	0	1	0	0	3	E
E'	1	1.9	—	4	10.0	—	0	0	—	7	2.4	—	1	1.0	—	2	1.9	—	E'
AE	0	0	1.9	0	0	10.0	0	0	0	0	0	2.8	0	0	1.0	1	1.0	2.9	AE
(N)	53			40			72			286			103			104			(N)
	頻数	%	頻数	%	頻数	%	頻数	%	頻数	%	頻数	%	頻数	%	頻数	%			
典型	8	15.1	6	15.0	17	23.6	70	24.5	24	23.3	25	24.0	典型						
準型	18	34.0	18	45.0	25	34.7	117	40.9	41	39.8	34	32.7	準型						
亜型	27	50.9	16	40.0	30	41.7	99	34.6	38	36.9	45	43.3	亜型						

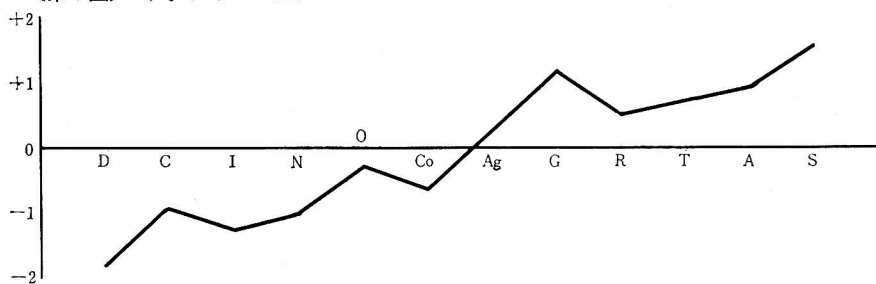
第24表 学 科 別 類 型 (41年)

学 科 類 型	機 械 科		生 産 機 械 科		化 学 科		化 工 科		電 気 科		電 子 科		建 築 科		学 科 類 型
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	
A	2	3.1	12	16.9	37	6.8	3	6.2	10	11.1	5.0	10	7.9	42	A
A'	2	3.1	14	19.7	52.1	11.0	0	0	19	13.2	10.2	13	10.2	20	A'
A''	19	29.7	11	15.5	17	14.4	7	14.6	15	10.4	15.0	19	15.0	14	A''
B	0	0	2	2.8	12	5.9	1	2.1	8	5.6	36	5	3.9	27	B
B'	7	10.9	4	5.6	16	13.6	5	10.4	11	7.6	12.6	16	12.6	17	B'
AB	1	1.6	6	8.5	8	6.8	6	12.5	17	11.8	4.7	6	4.7	11	AB
C	3	4.7	2	2.8	6	2.5	2	4.2	5	3.5	17	6	4.7	22	C
C'	5	7.8	2	2.8	6	5.1	1	2.1	4	2.8	2.4	3	2.4	3	C'
AC	5	7.8	2	2.8	8.5	5.1	4	8.3	8	5.6	11.8	13	10.2	13	AC
D	1	1.6	0	0	15	0.8	0	0	2	1.4	37	4	3.1	31	D
D'	11	17.2	5	7.0	19	16.1	10	20.8	19	13.2	25.7	17	13.4	28	D'
AD	7	10.9	10	14.1	21.1	11.9	8	16.7	16	11.1	7.9	10	7.9	21	AD
E	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0.8	1	0.6	4	E
E'	1	1.6	1	1.4	0	0	1	2.1	1	0.7	2.4	3	1.3	2	E'
AE	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2.1	0.8	1	0.6	1	AE
(N)	64		71		118		48		144		127		159		(N)
典 型	6	9.4	16	22.5	19	16.1	6	12.5	31	21.5	26	20.5	29	18.2	典 型
準 型	26	40.6	26	36.6	54	45.8	17	35.4	54	37.5	52	40.9	80	50.3	準 型
亜 型	32	50.0	29	40.9	45	38.1	25	52.1	59	41.0	49	38.6	60	31.4	亜 型

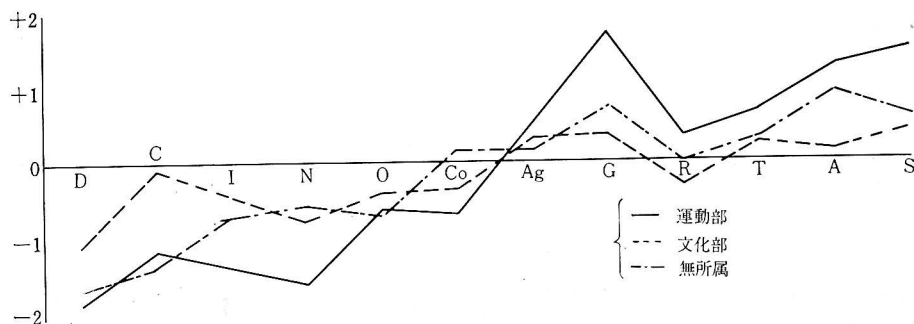
第25表 学 科 別 類 型 (合 計)

学 科	機 械 科		生 産 機 械 科		化 学 科		化 工 科		電 気 科		電 子 科		建 築 科		設 備 科		学 科							
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%								
A	2	3.1	23	14	11.3	52	8	5.1	32	7	5.8	16	11.1	50	26	6.3	119	14	5.3	77	6	5.8	28	A
A'	2	3.1		15	12.1		19	12.0		6	5.0		19	13.2		34	8.2		26	9.9		4	3.8	A'
A''	19	29.7	35.9	23	18.5	41.9	25	15.8	32.9	19	15.8	26.7	15	10.4	34.7	59	14.3	28.8	37	14.1	29.4	18	17.3	26.9
B	0	0	8	4	3.2	20	11	7.0	41	4	3.3	29	8	5.6	36	29	7.0	96	21	8.0	68	7	6.7	23
B'	7	10.9		9	7.3		21	13.3		11	9.2	24.2	11	7.6		52	12.6		32	12.2		10	9.6	
AB	1	1.6	12.5	7	5.6	16.1	9	5.7	25.9	14	11.7		17	11.8	25.0	15	3.6	23.2	15	5.7	26.0	6	5.8	22.1
C	3	4.7	13	6	4.8	17	4	2.5	21	11	9.2	24	5	3.5	17	29	7.0	84	10	3.8	36	11	10.6	29
C'	5	7.8		2	1.6		7	4.4		3	2.5		4	2.8		8	1.9		7	2.7		7	6.7	
AC	5	7.8	20.3	9	7.3	13.7	10	6.3	13.3	10	8.3	20.0	8	5.6	11.8	47	11.4	20.3	19	7.3	13.7	11	10.6	27.8
D	1	1.6	19	0	0	33	2	1.3	40	1	0.8	34	2	1.4	37	10	2.4	101	7	2.7	76	1	1.0	21
D'	11	17.2		16	12.9		21	13.3		21	17.5		19	13.2		65	15.7		43	16.4		11	10.6	
AD	7	10.9	29.7	17	13.7	26.6	17	10.8	25.3	12	10.0	28.3	16	11.1	25.7	26	6.3	24.5	26	9.9	29.0	9	8.7	20.2
E	0	0	1	0	0	2	0	0	4	0	0	1	0	0	4	2	0.5	13	1	0.4	5	0	0	3
E'	1	1.6		2	1.6		4	2.5		1	0.8		1	0.7		10	2.4		3	1.1		2	1.9	
AE	0	0	1.6	0	0	1.6	0	0	2.5	0	0	0.8	3	2.1	2.8	1	0.2	3.1	1	0.4	1.9	1	1.0	2.9
(N)	64		124		158		120		144		413		262		104		(N)							
	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%	頻 数	%						
典型	6	9.4	24	19.4	25	15.8	23	19.2	31	21.5	96	23.2	54	20.6	25	24.0	典型							
準型	26	40.6	44	35.5	72	45.6	42	35.0	54	37.5	169	40.9	111	42.4	34	32.7	準型							
距型	32	50.0	56	45.1	61	38.6	55	45.7	59	41.0	148	35.9	98	37.0	45	43.3	距型							

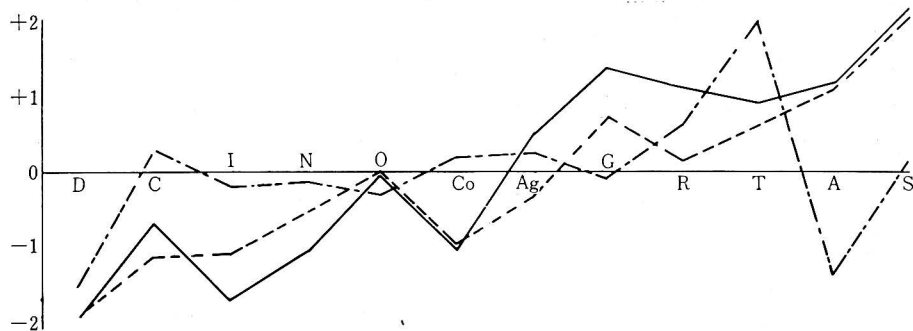
〔第1図〕 本学平均……(辻岡氏平均を基準)



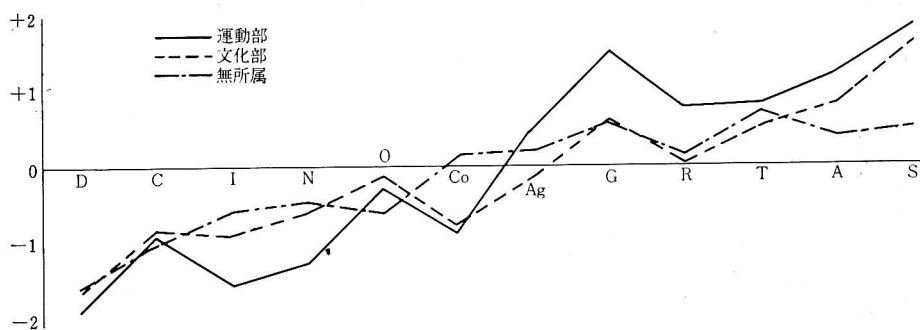
〔第2図〕 経験別(39年)……辻岡平均を基準



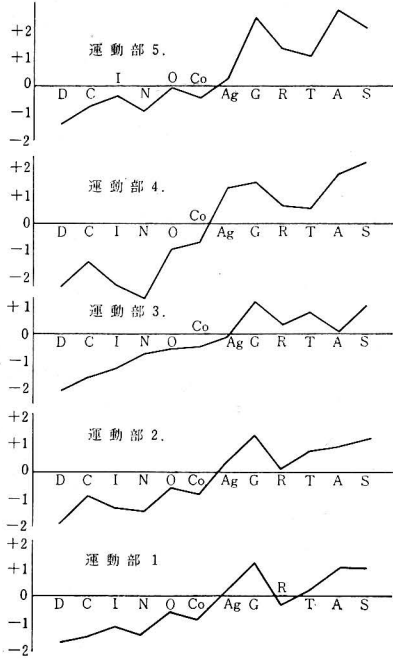
〔第3図〕 経験別(41年)……辻岡平均を基準



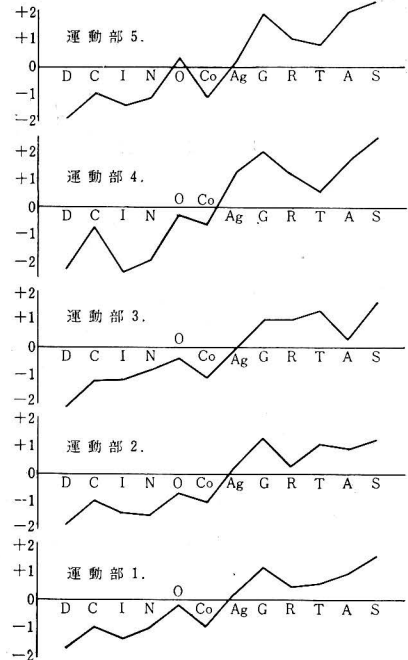
〔第4図〕 経験別(合計)……辻岡平均を基準



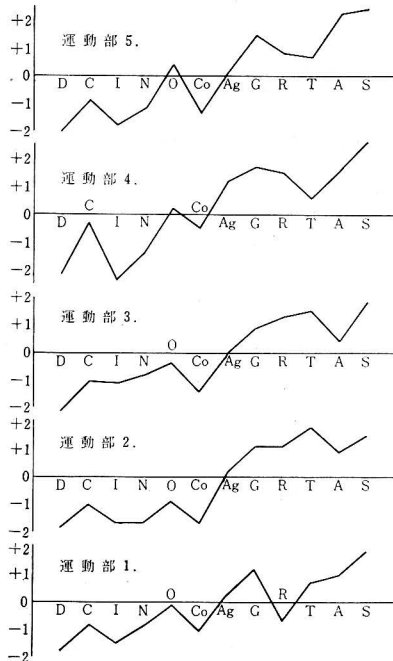
〔第5図〕 経験差別(39年)……辻岡平均を基準



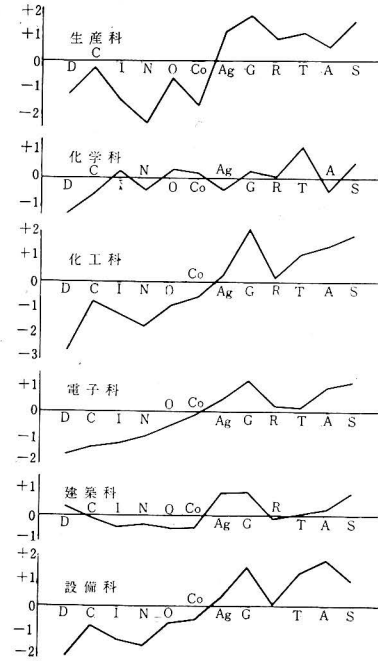
〔第6図〕 経験差別(41年)……辻岡平均を基準



〔第7図〕 経験差別(合計)……辻岡平均を基準

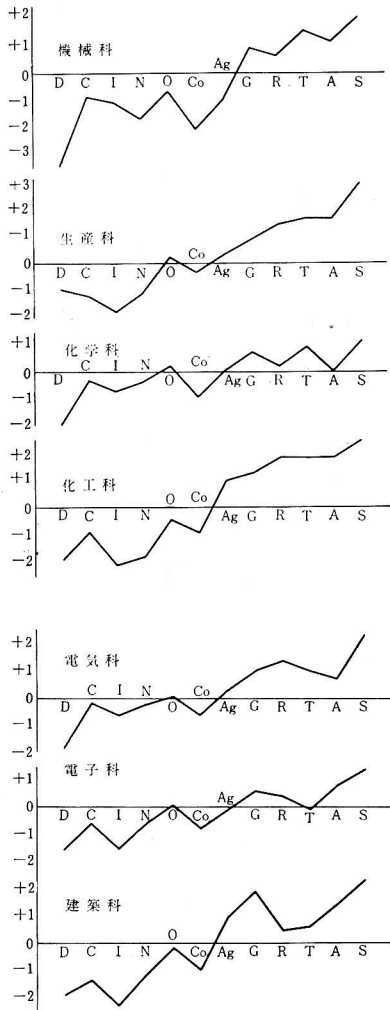


〔第8図〕 学科別(39年)……辻岡平均を基準

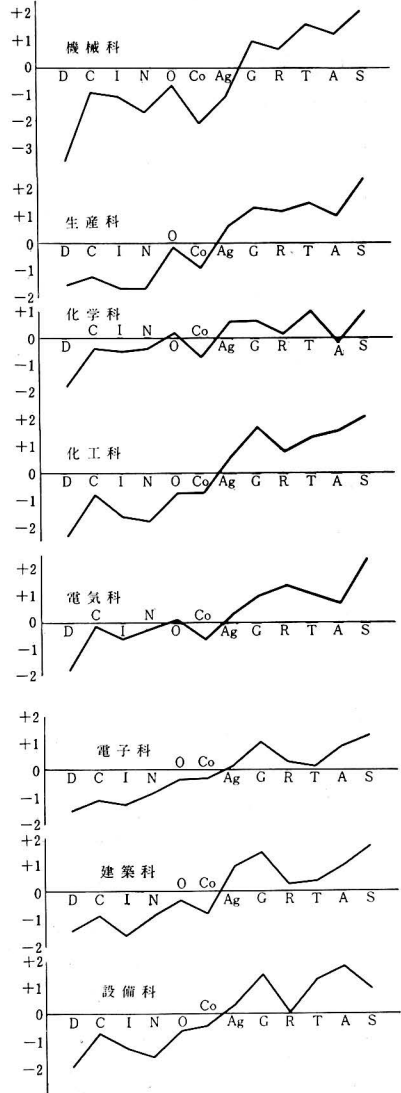




〔第9図〕 学科別(41年)…辻岡平均を基準



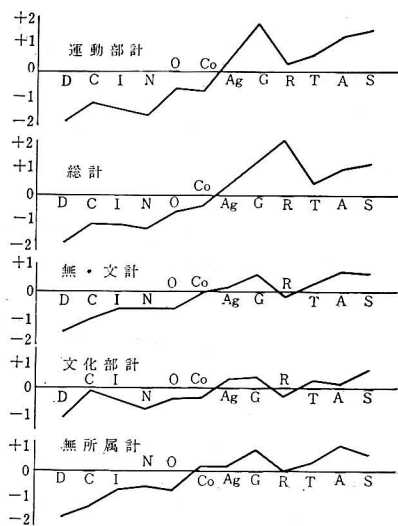
〔第10図〕 学科別(合計)…辻岡平均を基準



工学院大学新入生の Yatabe-Guliford 性格検査法による性格

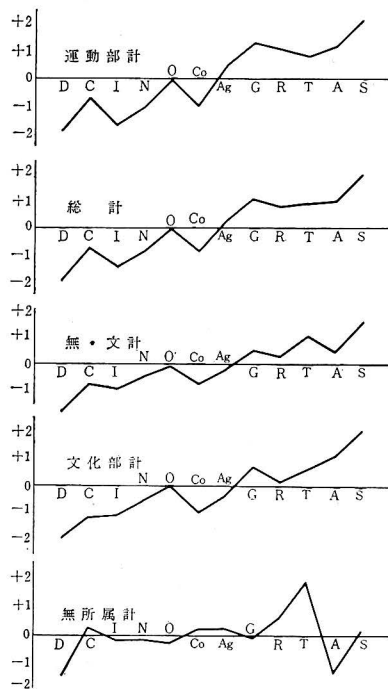
〔第11図〕 経験グループ別(39年)

.....辻岡平均を基準



〔第12図〕 経験グループ別(41年)

.....辻岡平均を基準



〔第13図〕 経験グループ別(合計)

.....辻岡平均を基準

